

平成18年度マスターセンター補助事業

## 滋賀県観光産業の課題と成長への提言

ー遊び、スポーツ体験と温泉資源を融合させ、健康増進のまちづくりー  
(遊びだおれの街コンセプト)

### 報告書

平成19年1月

社団法人 中小企業診断協会 滋賀県支部

## はじめに

滋賀県は古都京都の隣県で、日本最大の湖である琵琶湖を擁し、日本のほぼ中心に位置する県である。

人口動静では平成 18 年現在滋賀県民 138 万人、51 万所帯を有し、この 10 年間を見ても毎年 0.5%を超える人口増加の成長県の一つとなっている。県の面積 1/6 を占有する 6 7 0 k m<sup>2</sup>の広さをもつ近畿の水瓶としての役目を果たす琵琶湖を擁し、山紫水明、豊富なる水源は、その水利を活用して古き時代から農漁業、工業他あらゆる産業経済の発達、定着を生んできた。

本県は琵琶湖を初めとする風光明媚な山々等自然環境に恵まれ、社寺、仏閣など歴史的遺産、四季を通じたスポーツ、レクリエーション、地域の祭り、琵琶湖花火大会等イベントをも含め近畿圏の中でも特に多彩な観光資源に恵まれた地域であるといえる。

観光産業に関してはその客体である観光客の入込客数調査を見ると、その伸びは 5 年間決して増加傾向を示してはいない結果である。中小企業診断協会滋賀県支部では、このことに着目し、有数の観光資源に恵まれている県内観光産業の更なる活性化によって、資源の有効活用、もって県内経済総生産向上に寄与できないかに立脚し、現状分析から観光産業活性化への提言迄をまとめるべくマスターセンター補助調査・研究事業を企画した。

特に観光資源の中で埋もれた資源といえる県内に点在する温泉資源の効用を考えることについては、温泉地域を初め関連産業の活性化への効果が高いものと判断し、イメージ分析、公表調査報告データの分析、事業者アンケートおよび SWOT 分析（強み、弱み分析）等調査分析手法を広範囲に活用、効果的な提言に繋がることを意図して「滋賀県観光産業の課題と成長への提言」と題して推進することにした。

これらの調査、分析、提言活動は中小企業診断士会員として今後の事業所診断、地域診断助言実務にも大きく役立つものとなり、また本報告内容が関係各位で効果的に活用されることを願っている。

最後に業務多忙の中、当調査・研究事業の推進においてアンケートにご協力頂いた社団法人びわこビジターズビューローおよび会員の県内宿泊施設並びに他府県中小企業診断士、関係者各位にこの場を借りて心より厚く御礼を申し上げます。

平成 19 年 1 月

社団法人 中小企業診断協会滋賀県支部

中小企業診断士 大石 孝太郎

同 下村 裕彦

同 玉木 幸夫

同 仲西 貞之

# 滋賀県全体地図

Biwako Visitors Bureau



※湖西道路は、平成17年8月1日より無料開放となりました。

## 目次

はじめに

第1章 滋賀県における観光資源のイメージ調査 .....	1
1. 滋賀県内居住者による滋賀県および近隣府県に対するイメージ調査 .....	1
2. 他府県居住者からみた滋賀県のイメージ .....	6
第2章 滋賀県の宿泊施設から見た観光客の動態と課題 .....	17
1. アンケート情報のまとめと考察 .....	17
2. アンケートから見る今後への課題と期待 .....	22
第3章 各種統計結果から見た滋賀県の観光の現状 .....	24
1. 観光入込み客統計調査結果の分析と課題 .....	24
2. 観光動態調査から見た滋賀県観光の現状 .....	30
第4章 滋賀県観光資源のSWOT分析 .....	37
1. 滋賀県観光資源のSWOT分析と展開策 .....	37
第5章 「遊びだおれ」コンセプトモデルの提案 .....	43
1. 大津・湖南 .....	43
2. 湖西 —湖西の宿泊とスキースポーツ— .....	45
3. 湖東 .....	47
4. 湖北 .....	49
おわりに .....	54
参考資料 .....	55
1. 滋賀県における観光資源の情報を提供している主な団体 .....	55
2. 滋賀県内の主な観光資源 .....	56

## 第1章 滋賀県における観光資源のイメージ調査

### 1. 滋賀県内居住者による滋賀県および近隣府県に対するイメージ調査

滋賀県の観光資源というテーマを調査・研究するにあたり、近隣府県との比較で、相対的なポジションはどのような位置づけにあるかを探ることは、滋賀県観光の活性化、提言のため重要と考えた。

今回、個人の持つ観光資源に対するイメージをアンケート用紙を用いて調査した。各観光資源の項目には、偏りや不足があるが、同じ項目に対する評価を用いることで、観光イメージという非常に漠然とした事柄を比較可能な評点に表すこととした。

まずは、滋賀県内に居住する者が、滋賀県内の観光資源をどのようにイメージしているのかを他府県との比較で検討することとした。

#### 対象者：

中小企業診断協会滋賀県支部所属の8名の中小企業診断士

#### 対象府県：

滋賀県、京都府、奈良県、大阪府、兵庫県、福井県、三重県、岐阜県、和歌山県

#### 観光資源の項目：

表1に示す22項目である。さらに、各項目を8つのカテゴリーに分類して評価した。

#### 評価方法：

次の5段階評価を行った。

評価ポイント 5：良い、4：やや良い、3：普通、2やや良くない、1：良くない

#### カテゴリー：

「食」、「文化・伝統」、「都会性・利便性」、「温泉」、「宿泊」、「自然」、「スポーツ」、「遊園地・イベント（集客）」

留意点として、調査者人数が少ないことからデータに偏りがあること、男性が多いこと、中高年者が多く、若年層のイメージとは異なる可能性があることなどがある。

調査者による印象を基準としているので、各府県に対する評価はひとつの見方である事、また課題として受け取っていただきたい。

(1) 滋賀県居住者からみたイメージ調査の結果と考察

表1. 滋賀県居住者による各府県に対するイメージ

分類	観光資源項目	滋賀	京都	奈良	大阪	兵庫	和歌山	福井	三重	岐阜
食	食のうまさ	28	36	26	40	30	30	35	31	26
	食の独自性	29	40	29	38	28	27	28	27	25
文化 伝統	寺社神社	31	40	40	24	21	21	25	23	23
	伝統工芸	26	40	35	25	22	27	30	25	24
温泉	温泉	20	21	19	16	30	33	31	29	30
都会性 利便性	都会性	19	32	22	39	34	15	16	17	18
	交通アクセス	30	32	21	40	31	15	18	18	22
	総合利便性	28	31	21	34	33	14	18	18	18
宿泊	旅館	22	35	29	23	27	28	25	25	24
	ホテル	23	34	23	39	34	26	21	26	21
	ペンション	22	20	20	15	25	25	22	27	21
自然	水(海、湖、川)	35	24	13	26	31	32	32	36	16
	山	31	25	30	17	26	26	26	26	28
イベント 遊園地	イベント	22	31	22	34	30	17	20	20	17
	遊園地	11	14	16	32	26	24	15	28	20
スポーツ	トレッキング	28	21	29	19	28	28	26	29	27
	サイクリング	30	28	32	21	28	23	22	28	21
	ヨット	34	20	12	24	30	29	23	29	15
	ボート	34	19	14	27	30	29	25	31	15
	スキー	30	19	14	12	28	12	28	19	33
	テニス	22	26	25	25	28	25	23	27	23
	サッカー	25	26	22	32	29	18	21	22	21
総合点		580	614	514	602	629	524	530	561	488
平均点		26.4	27.9	23.4	27.4	28.6	23.8	24.1	25.5	22.2
一人当たり平均点		3.3	3.5	2.9	3.4	3.6	3.0	3.0	3.2	2.8
RANK		4	2	8	3	1	7	6	5	9

全体平均得点順位	兵庫	京都	大阪	滋賀	三重	福井	和歌山	奈良	岐阜
----------	----	----	----	----	----	----	-----	----	----

① 全体平均得点からみた各府県のイメージの結果と考察

9府県を順位付けすると、ベストから兵庫、京都、大阪、滋賀、三重、福井、和歌山、奈良、岐阜、と並ぶ。8診断士のうち7名が兵庫をベストに上げていた。

兵庫県には観光資源の大半をクリアできる優位性がある。北部の過疎からくる田舎性、神

戸を中心とした都会性。淡路島のもつ南国イメージと但馬のもつ雪国・北国イメージ、海水浴もスキーも合わせもっている。しかも関西の奥座敷である有馬、歴史豊かな城之崎など著名な温泉地も魅力であろう。これらのバランスのよさがベストに選ばれた理由であろう。

次に京都、大阪が上位であった。京都はいうまでもなく歴史の宝庫であり、京人形、京料理のように「京」を取り入れるだけでブランドが高まる。特に伝統と食事そして祇園、舞妓を連想する夜の遊び、賑わいは優位性がある。

大阪は利便性、食い倒れに表される食のうまさ、笑いの文化といった近代性・庶民性を併せ持っている点が代表的な強みと考えられる。

紀伊半島を東西に分ける三重と和歌山は各観光資源で同じような得点を示している。特に南国イメージ、水のイメージからペンション、スポーツに優位性が見受けられる。しかし、和歌山・三重県は特に滋賀から見ると、アクセス・利便性が得点を下げている。福井は北陸特有の食のうまさは上位だが、都会性、イベントの得点が低かった。岐阜は観光潮源豊かな県であるが、認知度の低さが得点の低さとなったのかもしれない。奈良は「温泉」、「スポーツ」、「遊園地・イベント」で得点が低かった。

滋賀県に対しては、水（琵琶湖）、スキー、ヨット・ボートであり、水にかかわる資源に優位性が見出せる。「温泉」、「遊園地・イベント」の評価が低い事が特徴でもある。「利便性」については京阪神に近く、北陸、近畿、中部、東海との結節点からもその評価を高めている。

表2. カテゴリー別得点ー滋賀県居住者によるイメージ調査ー

カテゴリー別得点	滋賀	京都	奈良	大阪	兵庫	和歌山	福井	三重	岐阜
食	3.56	4.75	3.44	4.88	3.63	3.56	3.94	3.63	3.19
文化・伝統	3.56	5.00	4.69	3.06	2.69	3.00	3.44	3.00	2.94
都会性・利便性	3.21	3.96	2.67	4.71	4.08	1.83	2.17	2.21	2.42
温泉	2.50	2.63	2.38	2.00	3.75	4.13	3.88	3.63	3.75
宿泊	2.79	3.71	3.00	3.21	3.58	3.29	2.83	3.25	2.75
自然	4.13	3.06	2.69	2.69	3.56	3.63	3.63	3.88	2.75
スポーツ	3.63	2.84	2.64	2.86	3.59	2.93	3.00	3.30	2.77
遊園地・イベント	2.06	2.81	2.38	4.13	3.50	2.56	2.19	3.00	2.31

表 3. カテゴリー別順位

カテゴリー別順位	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位
食	大阪	京都	福井	兵庫	三重	滋賀	和歌山	奈良	岐阜
文化・伝統	京都	奈良	滋賀	福井	大阪	三重	和歌山	岐阜	兵庫
都会性・利便性	大阪	兵庫	京都	滋賀	奈良	岐阜	三重	福井	和歌山
温泉	和歌山	福井	兵庫	岐阜	三重	京都	滋賀	奈良	大阪
宿泊	京都	兵庫	和歌山	三重	大阪	奈良	福井	滋賀	岐阜
自然	滋賀	三重	和歌山	福井	兵庫	京都	岐阜	奈良	大阪
スポーツ	滋賀	兵庫	三重	福井	和歌山	大阪	京都	岐阜	奈良
遊園地・イベント	大阪	兵庫	三重	京都	和歌山	奈良	岐阜	福井	滋賀

② カテゴリー別のイメージ調査の結果と考察

1) 食から見た分析と特徴

食の観光資源の順位は、京都、大阪がトップを占め、福井、和歌山が続き、滋賀は6位と低位にある。

滋賀の食の個性は琵琶湖を中心とした湖川の魚が中心となる。フナ鮓、フナ、もろこ、鮎など食材は豊かだが、川料理特有の個性が賛否の分かれるところである。他にも、近江牛、近江米、湖北の鴨等などの食材も豊富で魅力的であるが、他の産地産品と比較したブランド力が課題かもしれない。

2) 文化・伝統から見た分析と特徴

京都、奈良は世界的遺産が豊富にあり、認知度も高く観光資源として優位に立つ。滋賀は重要文化財で京都、奈良に次ぐ日本3位であり、伝統の宝庫である。湖東三山や永源寺、三井寺、石山寺などは、京都、奈良の寺院と比較しても遜色がない。イメージ得点も3.56と高得点であり、滋賀県民のイメージも高いと考えられる。

3) 都会性・利便性から見た分析と特徴

兵庫、京都、大阪がベスト3である。滋賀県は、4位であり、都会性・利便性の得点は、3.21と平均以上の得点である。交通アクセスは、中部、東海、北陸、近畿の結節点、へその位置をしめ、滋賀のもつ地理的優位性、戦略性は高い。



#### 4) 温泉、宿泊から見た分析と特徴

「温泉」に対する滋賀県の順位は7位であり、得点は2.50と低かった。「宿泊」についても、8位、得点は2.79と低かった。滋賀県には、雄琴地区に温泉街が集積し、ある意味京都の奥座敷になりえるが、他の地域の温泉については、個々の旅館として点在しており温泉街で遊ぶ、外湯につかる、ぶらり歩く雰囲気、インフラが不足している。

「宿泊」の得点は、「旅館」、「ホテル」、「ペンション」の総合得点であるが、どの項目も平均得点が3点を下回っている。理由は調査していないが、滋賀県居住者のため、滋賀県内の宿泊施設に関心が薄いか、他の地域に比べ知名度、集積力、マーケティング力に課題があるかもしれない。

#### 5) 自然から見た分析と特徴

「自然」という観光資源は滋賀県が1位であり和歌山、三重をしのいでいる。マザーレイク、琵琶湖の持つ優しい水の自然、近江八景、琵琶湖八景に示される水利用の観光化、風景として信州アルプスに引けをとらない比良山系の雄大さ、日本百名山の伊吹山等、京阪神の憧れの地になりえるといっても過言でない。大阪、兵庫、京都といった都市部からも、手軽に自然を満喫できる要素は大きな利点である。

#### 6) スポーツから見た分析と特徴

スポーツ・レジャー項目も滋賀県が1位であり、その強みを確認できた。各府県もそれぞれ特徴があるが、滋賀は水、山、平地のすべてのスポーツ環境に優れ、総合的に高い得点を示す。

すべての項目で3点以上カウントしているのは兵庫、滋賀だけである。夏の海水浴、冬のスキーを併せ持つ2県の利点は、滋賀の観光戦略に示唆を与えている。

#### 7) 遊園地・イベントから見た分析と特徴

滋賀が最下位である。大阪、兵庫の都会がもつビックな音楽コンサート、ディズニーランドに匹敵するUSJ。京都の都踊りや祇園祭などの伝統イベント。三重のスペイン村等がイメージをふくらませている。

## 2. 他府県居住者からみた滋賀県のイメージ

### 対象者：

京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県、福井県、岐阜県、三重県の近畿および近隣各府県の中小企業診断協会、商工会議所等の関係者である。

### アンケート様式：

滋賀県居住者と同じアンケート様式を使用した。

#### (1) アンケート結果の概要

表3. アンケートの回収枚数

	合計	京都	奈良	大阪	兵庫	和歌山	福井	三重	岐阜
回答数	43(42)	7	3	11	3	7	3	5	4(3)

滋賀県の近隣府県9県より、43名のアンケートを回収した。岐阜県の1名は、一部のアンケート項目が未記入であり、項目により3名として集計している。

奈良、兵庫、福井県では各3名の結果であり、個人的な意見に近い結果となっている可能性がある。

#### ① 他府県からみた滋賀県のイメージ（総合得点結果）

表4. 他府県のイメージ総合得点結果

平均得点順位	兵庫	京都	滋賀	大阪	福井	和歌山	三重	奈良	岐阜
1人当たり得点	3.6	3.4	3.3	3.3	3.0	3.0	3.0	2.9	2.8

各府県の合計の平均値による順位は、表4に示すように、1位は兵庫県、2位は京都府、3位・滋賀県となった。滋賀県は5段階評価で、3.3得点であり、平均値以上の好イメージをもたれていることがわかった。

② 他府県からみた滋賀県のイメージ（カテゴリー別得点結果）

表 5. カテゴリー別得点－他府県居住者－

カテゴリー別得点	滋賀	京都	奈良	大阪	兵庫	和歌山	福井	三重	岐阜
食	3.31	4.30	2.85	4.48	3.62	3.11	3.70	3.41	3.02
文化・伝統	3.22	4.84	4.43	3.15	2.90	3.10	3.28	3.14	2.84
都会性・利便性	3.11	4.24	2.86	4.66	4.23	2.40	2.37	2.45	2.62
温泉	2.53	2.41	2.36	2.02	3.72	3.92	3.83	3.18	3.41
宿泊	2.92	3.56	2.84	3.19	3.58	3.09	3.02	3.06	3.00
自然	4.08	3.02	2.85	2.41	3.65	3.87	3.78	3.62	3.42
スポーツ	3.68	2.59	2.39	2.60	3.31	2.85	2.98	2.79	2.70
遊園地・イベント	2.65	3.32	3.02	4.22	3.61	2.65	2.34	2.66	2.58

滋賀県に対するイメージが最も高かったのは、自然：4.08、スポーツ：3.68 であり、平均より低いイメージは、宿泊：2.92、遊園地・イベント（集客装置）：2.65、温泉：2.53 という結果であった。

③ 他府県からみた滋賀県のイメージ（カテゴリー別順位）

表 6. カテゴリー別順位－他府県居住者

カテゴリー別順位	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位
食	大阪	京都	福井	兵庫	三重	滋賀	和歌山	岐阜	奈良
文化・伝統	京都	奈良	福井	滋賀	大阪	三重	和歌山	兵庫	岐阜
都会性・利便性	大阪	京都	兵庫	滋賀	奈良	岐阜	三重	和歌山	福井
温泉	和歌山	福井	兵庫	岐阜	三重	滋賀	京都	奈良	大阪
宿泊	兵庫	京都	大阪	和歌山	三重	福井	岐阜	滋賀	奈良
自然	滋賀	和歌山	福井	兵庫	三重	岐阜	京都	奈良	大阪
スポーツ	滋賀	兵庫	福井	和歌山	三重	岐阜	大阪	京都	奈良
遊園地・イベント	大阪	兵庫	京都	奈良	三重	和歌山	滋賀	岐阜	福井

総合得点別のカテゴリー別順位を表 6 に示す。

「食」では滋賀県は 6 位であった。「文化・伝統」では 4 位、「都会性・利便性」では 4 位、

「温泉」では6位、「宿泊」では8位、「自然」では、1位、「スポーツ」では1位、「遊園地・イベント（集客）」では7位であった。

他府県住民からみたイメージでは、滋賀県は、「自然」や「ウォータースポーツ、サイクリング、その他スポーツ」で、最も高い印象を持たれていることがわかった。一方、宿泊、温泉、遊園地・イベントに関しては、良い印象を持たれていないことが明確となった。

#### ④ 近隣府県別の滋賀県のイメージ（総合得点順位）

表7. 府県別の滋賀県に対するイメージ

総平均点の順位	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位
大阪府	兵庫	大阪	京都	<b>滋賀</b>	福井	和歌山	三重	奈良	岐阜
京都府	<b>滋賀</b>	兵庫	京都	大阪	和歌山	三重	福井	奈良	岐阜
兵庫県	兵庫	京都	大阪	<b>滋賀</b>	和歌山	奈良	福井	三重	岐阜
奈良県	兵庫	京都	<b>滋賀</b>	福井	三重	大阪	和歌山	岐阜	奈良
和歌山県	兵庫	<b>滋賀</b>	大阪	京都	福井	和歌山	奈良	三重	岐阜
福井県	兵庫	<b>滋賀</b>	京都	福井	大阪	岐阜	奈良	和歌山	三重
岐阜県	京都	<b>滋賀</b>	岐阜	大阪	兵庫	三重	福井	和歌山	奈良
三重県	京都	大阪	兵庫	三重	<b>滋賀</b>	岐阜	和歌山	福井	奈良
他府県全体	兵庫	京都	大阪	<b>滋賀</b>	福井	和歌山	三重	奈良	岐阜

京都府における滋賀県のイメージは1位であり、和歌山県、福井県、岐阜県では2位、奈良県では3位であった。大阪府、兵庫県では4位、三重県では5位のイメージであった。

滋賀県との距離感や情報量、観光資源の競合状況などが影響していると考えられるが、観光マーケティングを考える上では、近隣でも一律のマーケティングでなく個別マーケティングの必要性を示唆するものである。

各近隣の府県がどのように滋賀県に対するイメージを持っているかについては、次節で報告する。

(2) 各府県別イメージ得点

① 大阪府

表 8. 大阪府居住者のイメージ得点

全得点順位	兵庫	大阪	京都	滋賀	福井	和歌山	三重	奈良	岐阜
カテゴリー別得点	滋賀	京都	奈良	大阪	兵庫	和歌山	福井	三重	岐阜
食	3.27	4.14	2.91	4.68	3.68	3.41	3.91	3.64	3.14
文化・伝統	3.09	4.86	4.59	3.55	2.86	2.95	3.14	3.00	2.86
都会性・利便性	2.94	4.00	2.67	4.76	4.21	2.18	2.03	2.12	2.45
温泉	2.45	2.55	2.55	2.36	3.82	4.27	4.00	3.36	3.45
宿泊	3.03	3.67	3.03	3.33	3.76	3.27	3.09	3.06	2.85
自然	4.23	3.27	3.05	2.55	3.91	3.77	3.68	3.77	3.27
スポーツ	3.66	2.57	2.35	2.69	3.61	2.74	2.88	2.77	2.38
遊園地・イベント	2.32	3.09	2.59	4.23	3.68	2.73	2.32	2.91	2.41

カテゴリー別順位	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位
食	大阪	京都	福井	兵庫	三重	和歌山	滋賀	岐阜	奈良
文化・伝統	京都	奈良	大阪	福井	滋賀	三重	和歌山	兵庫	岐阜
都会性・利便性	大阪	兵庫	京都	滋賀	奈良	岐阜	和歌山	三重	福井
温泉	和歌山	福井	兵庫	岐阜	三重	京都	奈良	滋賀	大阪
宿泊	兵庫	京都	大阪	和歌山	福井	三重	滋賀	奈良	岐阜
自然	滋賀	兵庫	和歌山	三重	福井	京都	岐阜	奈良	大阪
スポーツ	滋賀	兵庫	福井	三重	和歌山	大阪	京都	岐阜	奈良
遊園地・イベント	大阪	兵庫	京都	三重	和歌山	奈良	岐阜	滋賀	福井

大阪府居住者のイメージは、総合順位では兵庫県が1位、大阪府は2位、滋賀県は4位であった。カテゴリー別では、「自然」、「スポーツ」では滋賀県は1位であったが、それ以外のカテゴリーでは、相当低位であった。

大阪府居住者に対しては、「自然」、「スポーツ」をどのように滋賀県で楽しんでもらうか、また「温泉」、「宿泊」、「イベント」といった知名度が低かったり、アピールが少ない観光資源をどう効果的にアピールするかを検討する必要がある。

② 京都府

表9. 京都府居住者のイメージ得点

全得点順位	滋賀	兵庫	京都	大阪	和歌山	三重	福井	奈良	岐阜
カテゴリー別得点	滋賀	京都	奈良	大阪	兵庫	和歌山	福井	三重	岐阜
食	3.29	4.43	3.14	4.43	3.71	3.50	3.50	3.14	3.29
文化・伝統	3.36	4.86	4.50	2.64	3.07	3.00	2.79	2.86	2.93
都会性・利便性	3.24	3.86	2.67	4.52	4.14	2.62	2.52	2.52	2.62
温泉	2.86	2.57	2.71	2.00	3.29	3.86	3.71	3.43	3.71
宿泊	3.14	3.57	3.38	3.14	3.52	3.38	3.29	3.24	3.33
自然	4.36	3.07	2.93	2.57	3.71	3.86	3.64	3.29	3.64
スポーツ	3.80	2.57	2.43	2.57	3.16	2.84	2.86	2.82	2.86
遊園地・イベント	2.86	3.36	2.86	3.71	3.07	2.43	2.43	2.36	2.64

カテゴリー別順位	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位
食	京都	大阪	兵庫	和歌山	福井	滋賀	岐阜	三重	奈良
文化・伝統	京都	奈良	滋賀	兵庫	和歌山	岐阜	三重	福井	大阪
都会性・利便性	大阪	兵庫	京都	滋賀	奈良	和歌山	岐阜	三重	福井
温泉	和歌山	福井	岐阜	三重	兵庫	滋賀	京都	奈良	大阪
宿泊	京都	兵庫	和歌山	奈良	岐阜	福井	三重	滋賀	大阪
自然	滋賀	和歌山	兵庫	福井	岐阜	三重	京都	奈良	大阪
スポーツ	滋賀	兵庫	福井	岐阜	和歌山	三重	京都	大阪	奈良
遊園地・イベント	大阪	京都	兵庫	滋賀	奈良	岐阜	和歌山	福井	三重

京都府居住者のイメージ得点は、総合順位では滋賀県が1位、兵庫県は2位、京都府は3位であった。カテゴリー別では、「自然」、「スポーツ」では滋賀県は1位であったが、「文化・伝統」では3位、「都会性・利便性」、「遊園地・イベント」では4位であった。

しかし、「温泉」、「遊園地・イベント」の得点は、3点以下であり、平均より低いことに注意が必要である。京都からは交通の便もよく、「自然」、「スポーツ」を気軽に楽しんでもらえる有利であるが、温泉や宿泊には魅力を感じていないことが推察される。

イベント等の集客装置が少ないことが課題である。

③ 兵庫県

表10. 兵庫県居住者のイメージ得点

全得点順位	兵庫	京都	大阪	滋賀	和歌山	奈良	福井	三重	岐阜
カテゴリー別得点	滋賀	京都	奈良	大阪	兵庫	和歌山	福井	三重	岐阜
食	2.67	4.17	2.50	4.33	4.00	3.17	3.33	3.33	2.67
文化・伝統	3.50	5.00	5.00	3.83	3.33	3.17	3.50	3.17	2.50
都会性・利便性	2.67	4.67	2.89	4.78	4.78	2.33	2.00	2.11	2.11
温泉	2.67	2.33	2.00	2.00	4.33	4.67	3.67	2.67	2.00
宿泊	3.11	4.22	3.11	3.44	4.11	3.33	3.22	2.89	2.78
自然	4.67	3.83	3.00	3.00	4.67	4.33	4.17	3.83	3.17
スポーツ	3.76	2.48	2.43	2.86	3.71	2.86	2.67	2.38	2.38
遊園地・イベント（集客）	3.00	4.00	3.50	4.50	4.67	3.00	2.33	2.00	2.17

カテゴリー別順位	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位
食	大阪	京都	兵庫	福井	三重	和歌山	滋賀	岐阜	奈良
文化・伝統	京都	奈良	大阪	滋賀	福井	兵庫	和歌山	三重	岐阜
都会性・利便性	大阪	兵庫	京都	奈良	滋賀	和歌山	三重	岐阜	福井
温泉	和歌山	兵庫	福井	三重	滋賀	京都	奈良	大阪	岐阜
宿泊	京都	兵庫	大阪	和歌山	福井	滋賀	奈良	三重	岐阜
自然	滋賀	兵庫	和歌山	福井	京都	三重	岐阜	奈良	大阪
スポーツ	滋賀	兵庫	大阪	和歌山	福井	京都	奈良	三重	岐阜
遊園地・イベント（集客）	兵庫	大阪	京都	奈良	滋賀	和歌山	福井	岐阜	三重

兵庫県居住者のイメージは、総合順位では兵庫県が1位、滋賀県は4位であった。カテゴリー別では、「自然」、「スポーツ」では滋賀県は1位であったが、それ以外は、4位以下であった。滋賀県の得点は、「食」、「都会性・利便性」、「温泉」で3点以下であり、兵庫県居住者に対して、交通の利便性や滋賀県のおいしい「食」をアピールする必要がある。

兵庫県は南北を海に接し、スキーや登山など自然に恵まれている。また、有名な温泉を擁しているため、相対的に滋賀県の魅力度は低く感じられるかもしれないが、滋賀県は平地が多く、サイクリングや琵琶湖でのヨット遊びなど独自性の高い観光資源をアピールすることが有効である。

④ 奈良県

表 1 1. 奈良県居住者のイメージ得点

全体平均得点順位	兵庫	京都	滋賀	福井	三重	大阪	和歌山	岐阜	奈良
----------	----	----	----	----	----	----	-----	----	----

カテゴリー別得点	滋賀	京都	奈良	大阪	兵庫	和歌山	福井	三重	岐阜
食	3.00	4.33	2.17	4.50	3.83	2.50	3.50	2.83	3.17
文化・伝統	2.83	4.50	4.33	2.50	2.33	3.00	3.33	3.17	2.33
都会性・利便性	2.44	4.11	2.22	4.56	4.56	2.11	2.11	2.00	1.89
温泉	2.67	2.67	2.67	1.33	4.00	4.00	4.33	4.33	4.33
宿泊	2.78	3.78	2.11	2.67	3.56	3.00	3.00	3.44	3.22
自然	4.33	3.00	3.50	1.67	3.67	3.67	4.17	3.83	3.17
スポーツ	3.90	2.57	2.10	2.33	3.52	3.10	3.38	3.24	3.05
遊園地・イベント	2.17	3.00	2.17	4.50	4.00	2.17	1.67	2.33	2.67

カテゴリー別順位	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位
食	大阪	京都	兵庫	福井	岐阜	滋賀	三重	和歌山	奈良
文化・伝統	京都	奈良	福井	三重	和歌山	滋賀	大阪	兵庫	岐阜
都会性・利便性	兵庫	大阪	京都	滋賀	奈良	和歌山	福井	三重	岐阜
温泉	福井	三重	岐阜	兵庫	和歌山	滋賀	京都	奈良	大阪
宿泊	京都	兵庫	三重	岐阜	和歌山	福井	滋賀	大阪	奈良
自然	滋賀	福井	三重	兵庫	和歌山	奈良	岐阜	京都	大阪
スポーツ	滋賀	兵庫	福井	三重	和歌山	岐阜	京都	大阪	奈良
遊園地・イベント	大阪	兵庫	京都	岐阜	三重	滋賀	和歌山	奈良	福井

奈良県居住者のイメージ得点は、総合順位では兵庫県が1位、京都府は2位、滋賀県は3位であった。カテゴリー別では、「自然」、「スポーツ」では滋賀県は1位であったが、それ以外の評価は低かった。

「文化・伝統」、「都会性・利便性」、「温泉」、「宿泊」、「遊園地・イベント」の得点は、3点以下であり、平均より低いことに注意が必要である。

奈良県は、地域により滋賀県までの交通手段が不便なところがある。そのため、奈良県から出やすい大阪・京都・兵庫が高くなっていることが考えられるが、「自然」、「スポーツ」に対する評価は高く、宿泊・温泉資源を活かしたアピールが必要である。



⑤ 和歌山県

表 1 2. 和歌山県居住者のイメージ得点

全体平均得点順位	兵庫	<b>滋賀</b>	大阪	京都	福井	和歌山	奈良	三重	岐阜
----------	----	-----------	----	----	----	-----	----	----	----

カテゴリー別得点	滋賀	京都	奈良	大阪	兵庫	和歌山	福井	三重	岐阜
食	3.93	4.07	3.50	4.43	3.71	3.21	3.79	3.14	2.64
文化・伝統	3.64	4.86	4.14	3.21	3.00	3.57	3.43	3.21	2.50
都会性・利便性	3.62	4.33	3.38	4.67	4.00	2.67	2.67	2.62	2.48
温泉	2.14	1.71	1.71	1.86	3.71	4.14	3.29	3.29	2.71
宿泊	2.95	2.86	2.48	3.29	3.71	2.71	3.00	2.76	2.43
自然	3.71	2.79	2.71	2.50	3.71	4.07	3.64	3.50	3.07
スポーツ	3.63	2.59	2.65	2.82	3.49	2.88	3.02	2.78	2.22
遊園地・イベント	2.64	3.36	3.50	4.21	3.79	2.93	2.64	2.71	2.21

カテゴリー別順位	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位
食	大阪	京都	<b>滋賀</b>	福井	兵庫	奈良	和歌山	三重	岐阜
文化・伝統	京都	奈良	<b>滋賀</b>	和歌山	福井	大阪	三重	兵庫	岐阜
都会性・利便性	大阪	京都	兵庫	<b>滋賀</b>	奈良	和歌山	福井	三重	岐阜
温泉	和歌山	兵庫	福井	三重	岐阜	<b>滋賀</b>	大阪	京都	奈良
宿泊	兵庫	大阪	福井	<b>滋賀</b>	京都	三重	和歌山	奈良	岐阜
自然	和歌山	<b>滋賀</b>	兵庫	福井	三重	岐阜	京都	奈良	大阪
スポーツ	<b>滋賀</b>	兵庫	福井	和歌山	大阪	三重	奈良	京都	岐阜
遊園地・イベント（集客）	大阪	兵庫	奈良	京都	和歌山	三重	<b>滋賀</b>	福井	岐阜

和歌山県居住者のイメージ得点は、総合順位では兵庫県が1位、滋賀県は2位であった。カテゴリー別では、「スポーツ」で滋賀県は1位、「自然」は2位、「食」、「文化・伝統」では3位であった。得点は、温泉が2.14と低い評価であったが、和歌山県は有名な温泉が点在しているため相対的に評価が低かったと考えられる。「遊園地・イベント」は、2.64であり、和歌山県からは滋賀県に来てもらえる動機づけ要因が必要と考えられる。

⑥ 福井県

表 1 2. 福井県居住者のイメージ得点

全体平均得点順位	兵庫	<b>滋賀</b>	京都	福井	大阪	岐阜	奈良	和歌山	三重
----------	----	-----------	----	----	----	----	----	-----	----

カテゴリー別得点	滋賀	京都	奈良	大阪	兵庫	和歌山	福井	三重	岐阜
食	3.33	3.83	2.50	4.17	3.17	2.50	4.17	3.17	2.83
文化・伝統	2.83	5.00	4.00	3.33	2.83	2.83	3.50	3.00	2.67
都会性・利便性	3.56	4.33	3.00	4.67	4.33	2.22	2.67	2.22	3.33
温泉	1.67	1.67	1.67	1.33	3.00	2.67	3.67	2.00	3.33
宿泊	2.44	3.11	2.56	3.00	3.22	2.56	2.44	2.67	3.00
自然	3.67	2.33	2.33	2.00	3.33	3.83	4.17	3.17	3.17
スポーツ	3.62	2.52	2.33	2.14	2.95	2.57	3.00	2.43	2.62
遊園地・イベント	3.00	3.17	3.50	4.67	3.83	2.67	2.33	2.50	2.83

カテゴリー別順位	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位
食	大阪	福井	京都	<b>滋賀</b>	兵庫	三重	岐阜	和歌山	奈良
文化・伝統	京都	奈良	福井	大阪	三重	<b>滋賀</b>	兵庫	和歌山	岐阜
都会性・利便性	大阪	兵庫	京都	<b>滋賀</b>	岐阜	奈良	福井	和歌山	三重
温泉	福井	岐阜	兵庫	和歌山	三重	<b>滋賀</b>	京都	奈良	大阪
宿泊	兵庫	京都	大阪	岐阜	三重	奈良	和歌山	<b>滋賀</b>	福井
自然	福井	和歌山	<b>滋賀</b>	兵庫	三重	岐阜	京都	奈良	大阪
スポーツ	<b>滋賀</b>	福井	兵庫	岐阜	和歌山	京都	三重	奈良	大阪
遊園地・イベント	大阪	兵庫	奈良	京都	<b>滋賀</b>	岐阜	和歌山	三重	福井

福井県居住者のイメージ得点は、総合順位では兵庫県が1位、滋賀県は2位であった。カテゴリー別では、「スポーツ」で滋賀県は1位、「自然」は3位であったが、それ以外の順位は低かった。得点は、温泉が1.67と低い評価であったが、福井県には全国的にも有名な温泉が多くあるためと考えられる。「宿泊」も低い評価になっているが、福井県から大阪・京都方面へは高速道路・JRとも利便性が高く、通過県となっていることが推察される。「文化・伝統」の評価が低いのは、アピール不足ではないだろうか。

⑦ 三重県

表14. 三重県居住者のイメージ得点

全体平均得点順位	京都	大阪	兵庫	三重	滋賀	岐阜	和歌山	福井	奈良
----------	----	----	----	----	----	----	-----	----	----

カテゴリー別得点	滋賀	京都	奈良	大阪	兵庫	和歌山	福井	三重	岐阜
食	3.50	4.90	3.10	4.80	3.50	3.40	3.70	4.00	3.20
文化・伝統	3.10	4.80	4.50	3.00	2.90	3.10	3.40	3.70	3.30
都会性・利便性	2.93	4.27	3.13	4.80	4.07	2.60	2.53	3.20	3.27
温泉	2.80	2.80	2.60	2.60	3.60	3.40	3.60	3.00	3.20
宿泊	2.93	3.80	3.07	3.53	3.53	3.13	3.00	3.07	3.13
自然	3.90	3.00	2.80	2.70	3.40	3.90	3.60	4.10	3.50
スポーツ	3.49	2.69	2.37	2.71	3.00	2.97	2.97	3.00	2.89
遊園地・イベント	2.60	3.40	3.20	4.10	3.20	2.80	2.50	3.30	2.80

カテゴリー別順位	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位
食	京都	大阪	三重	福井	滋賀	兵庫	和歌山	岐阜	奈良
文化・伝統	京都	奈良	三重	福井	岐阜	滋賀	和歌山	大阪	兵庫
都会性・利便性	大阪	京都	兵庫	岐阜	三重	奈良	滋賀	和歌山	福井
温泉	兵庫	福井	和歌山	岐阜	三重	滋賀	京都	大阪	奈良
宿泊	京都	大阪	兵庫	和歌山	岐阜	三重	奈良	福井	滋賀
自然	三重	滋賀	和歌山	福井	岐阜	兵庫	奈良	京都	大阪
スポーツ	滋賀	兵庫	三重	和歌山	福井	岐阜	大阪	京都	奈良
遊園地・イベント	大阪	京都	三重	奈良	兵庫	和歌山	岐阜	滋賀	福井

三重県居住者のイメージは、総合順位では京都府が1位、滋賀県は5位であった。カテゴリー別では、「スポーツ」では滋賀県は1位、「自然」では2位であったが、それ以外のカテゴリーで低い評価となった。特に「宿泊」、「遊園地・イベント」は下位のランクであり、三重県からは魅力を感じてもらっていないものと推察される。

「自然」、「スポーツ」といった滋賀県の持つ優位な資源は、三重県にも豊富であり、三重県を含めた東海方面には、近畿とは異なったアピールが必要と考えられる。

⑧ 岐阜県

表 15. 岐阜県居住者のイメージ得点

全体平均得点順位	京都	<b>滋賀</b>	岐阜	大阪	兵庫	三重	福井	和歌山	奈良
----------	----	-----------	----	----	----	----	----	-----	----

カテゴリー別得点	滋賀	京都	奈良	大阪	兵庫	和歌山	福井	三重	岐阜
食	3.50	4.50	3.00	4.50	3.33	3.17	3.67	4.00	3.25
文化・伝統	3.38	4.83	4.33	3.17	2.83	3.17	3.17	3.00	3.63
都会性・利便性	3.50	4.33	2.89	4.56	3.78	2.44	2.44	2.78	2.83
温泉	3.00	3.00	3.00	2.67	4.00	4.33	4.33	3.33	4.50
宿泊	3.00	3.44	3.00	3.11	3.22	3.33	3.11	3.33	3.25
自然	3.75	2.83	2.50	2.33	2.83	3.50	3.17	3.50	4.38
スポーツ	3.61	2.71	2.48	2.67	3.05	2.86	3.10	2.95	3.21
遊園地・イベント	2.63	3.17	2.83	3.83	2.67	2.50	2.50	3.17	2.88

カテゴリー別順位	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位
食	京都	大阪	三重	福井	<b>滋賀</b>	兵庫	岐阜	和歌山	奈良
文化・伝統	京都	奈良	岐阜	<b>滋賀</b>	大阪	和歌山	福井	三重	兵庫
都会性・利便性	大阪	京都	兵庫	<b>滋賀</b>	奈良	岐阜	三重	和歌山	福井
温泉	岐阜	和歌山	福井	兵庫	三重	<b>滋賀</b>	京都	奈良	大阪
宿泊	京都	和歌山	三重	岐阜	兵庫	大阪	福井	<b>滋賀</b>	奈良
自然	岐阜	<b>滋賀</b>	和歌山	三重	福井	京都	兵庫	奈良	大阪
スポーツ	<b>滋賀</b>	岐阜	福井	兵庫	三重	和歌山	京都	大阪	奈良
遊園地・イベント	大阪	京都	三重	岐阜	奈良	兵庫	<b>滋賀</b>	和歌山	福井

岐阜県居住者のイメージは、総合順位では京都府が1位、滋賀県は2位であった。カテゴリー別では、「スポーツ」では滋賀県は1位、「自然」では2位であった。得点では、「遊園地・イベント」が2.63と3点以下である以外は、3以上であった。そのため、総合得点で2位になったと考えられる。

「自然」、「スポーツ」といった滋賀県の持つ優位な資源は、岐阜県にも豊富であり、1位、2位を分け合っている。岐阜県・三重県を含めた東海方面には、滋賀県観光資源の優位性が相対的に低くなる傾向があり、東海地方からみた滋賀県の魅力作りが求められる。

## 第2章 滋賀県の宿泊施設から見た観光客の動態と課題

滋賀県内の主な旅館・ホテル 63 施設に対して、旅館・ホテルの利用状況、および地域の観光資源との連携や対策などを調査した。

### 調査対象施設：

社団法人びわこビジターズビューロー（滋賀県観光産業の振興を支援する団体）の会員施設  
63 施設

### 調査方法：

郵送によるアンケート依頼と F A X による回収

### 回収結果：

34 施設、54.0%から回答を得た。

### 回答の集計方法：

回答内容は実数でなく構成割合を用いているため、頻度区分による集計とした。

注：「 / 」は、回答数「1」を表現する度数を表現している（以下、同じ）

### 1. アンケート情報のまとめと考察

(1) 目的：どの地域からの利用客割合が多いかを調査する

設問内容：貴施設を利用される顧客の構成割合は、昨年の平均で大体どのくらいですか

割合 \ 地域	滋賀県内より	近畿圏より	中部圏より	その他より
60%超	///	///		//
50超～60%	/			/
40超～50%	///	//	/	//// /
30越～40%	//	//// /		/
20越～30%	////	//// ///	//// /	//// ///
10超～20%	//// /	//// /	//// ///	//// /
0～10%	//// //// /	///	//// //// //// /	//// /

### 考察：

滋賀県内宿泊施設への直接アンケートから、現状の観光客来県地区割合を尋ねる質問であった。これは滋賀県で宿泊する目的にも影響されるが、近県から如何に認知されているかの一端を伺い知ることが出来る。観光客割合多いとする60%を超える地域回答は滋賀県内、近

畿圏が挙げられる。一方観光客割合が30%以下とする回答は滋賀県内、近畿圏、中部圏共に多く、回答ウエイトは全体の74%である。特に中部圏からの来県者が10%以下とする回答が最も多く顕著であった。全体的にウエイトは少ないものの近郊県から宿泊、観光顧客の来県があることが現れている。

(2) 目的：観光客の行動時間実態を調べる

設問内容：日帰りと宿泊の割合は、概ねどのくらいですか

日帰り/宿泊の比	0/100	5/95	10/90	15/85	20/80	25/75	30/70	35/65	40/60	45/55	50/50
回答数	////		//	/	//	/	/	///	/	//	////
日帰り/宿泊の比	55/45	60/40	65/35	70/30	75/25	80/20	85/15	90/10	95/5	100/0	
回答数		/		//		/	/	/			

注：例：「10/90」の項目の見方は、日帰り客が10に対して宿泊客が90の比率であることを示し、日帰り客が少ないことを示す。

考察：

次に宿泊施設からみる施設利用者、観光客の日帰りと宿泊の割合を質問している。100%宿泊をする回答件数は少ないものの最も多く、次いで半々程度の回答が多かった。70%以上が日帰りである回答を一括すれば来県者の日帰り客のウエイトは高いことが伺える。

(3) 目的：観光客の宿泊施設の利用目的を調べる

設問内容：貴施設を利用される主な目的は、概ね割合はどのくらいですか

注：1施設における利用者の主な目的の割合である。例：宴会20、入浴10、仕事70%であるとすると、仕事が主な利用目的であることが多いことを示す。

割合 区分	宴会目的	入浴目的	食事目的	観光目的	仕事目的
90超～					
80超～90%					///
70超～80%	/	/		//	////
60超～70%	/			/	/
50超～60%			/	//	/
40超～50%	/		//	//	/
30超～40%	///			///	
20越～30%	////		////	///	//
10超～20%	//////		//////	//////	///
0～10%	//	////	///	////	//////

考察：

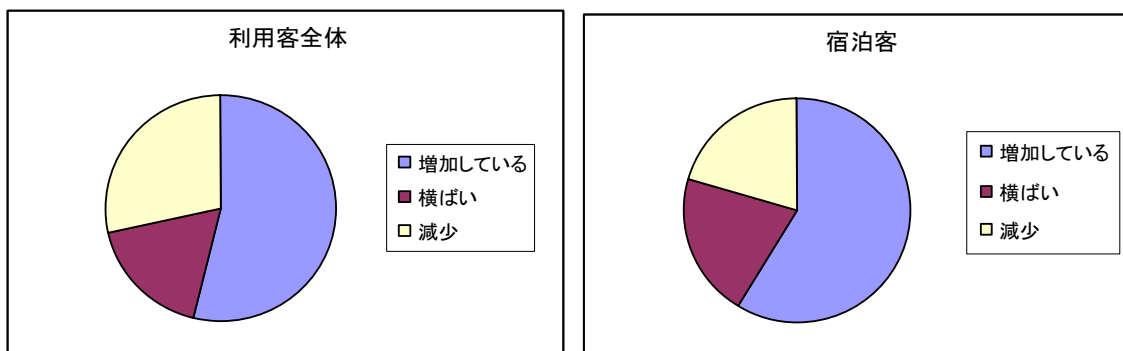
宿泊施設の利用目的を設定して質問している。仕事での利用が目的割合の上で高いウエイトを占めている、次いで観光目的がウエイトの高い回答割合も多いが 20%以下の回答も多い。入浴目的項目を設定して質問したが温泉入浴の目的は殆ど回答がなく、県内温泉の認知度を含めて滋賀県観光資源への施設利用者の動向として注目すべき結果である。

仕事の比率の高い宿泊施設と観光目的の比率の高い宿泊施設の分布は 2 極化しており、ビジネスホテル、観光旅館等の経営コンセプトが反映している結果といえる。

(4) 目的：5 年前との利用客、宿泊客数の変化を調べる

設問内容：5 年前と本年の貴地の利用客全体と宿泊客の動向は如何でしょうか

利用客変化	増加している	横ばい	減少
利用客全体	//// // // //	////	//// //
宿泊客	//// // // // //	//// /	//// /
比率	56%	19%	25%



考察：

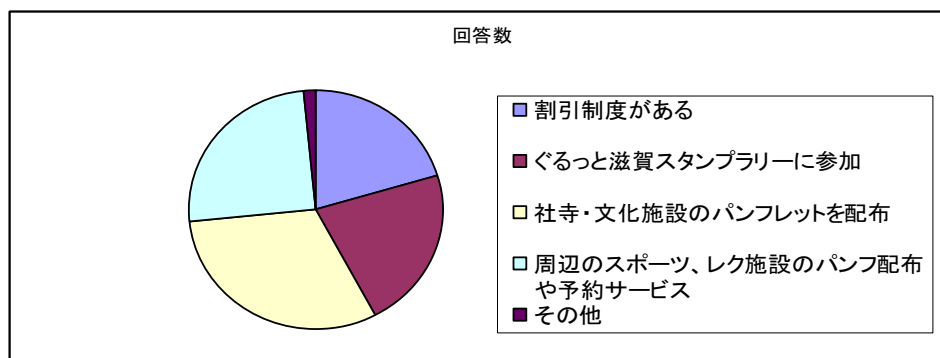
5 年前と現在の施設利用者、観光客の推移変化を質問している。回答の半数以上 56%が利用者全体、宿泊客共に「増加をしている」との回答結果であった。滋賀県への来県目的にもよると思われるが、産業経済、観光産業含めて最近の好ましい状態が示されている。

他方利用者、宿泊客共に「減少している」との 25%回答ウエイトが高いことはその要因などに注目しておく必要がある。

(5) 目的：宿泊施設と他の観光資源との連携状態を調べる

設問内容：地域の観光施設や観光資源との連携はありますか

観光資源との連携内容	回答数
割引制度がある	//// //
ぐるっと滋賀スタンプラリーに参加	//// //
社寺・文化施設のパンフレットを配布	//// //
周辺のスポーツ、レク施設のパンフ配布や予約サービス	//// //
その他	/



考察：

宿泊施設として地域、活動との積極的に行われる連携について複数回答で質問している。

それぞれ活動が施設において実施されているが、県内および京都にある社寺・文化施設等との連携回答が多く、案内、パンフレットを配布し積極的な活動が伺える。

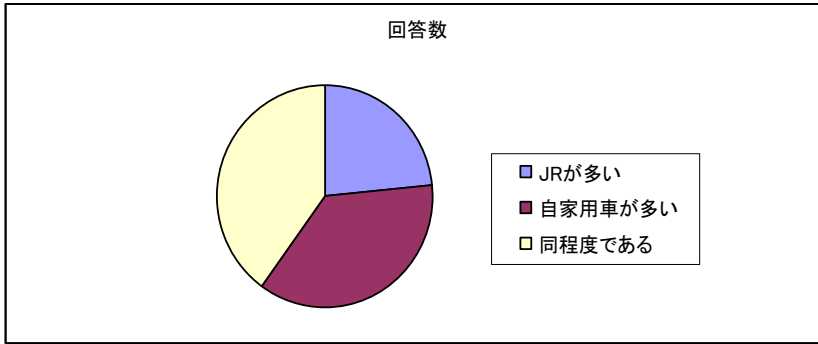
若年層向けの夏、冬各種スポーツ、レクレーション等の取り組みに積極的な姿勢が伺える。その他の1件は県内の温泉連携に取り組んでいることについて注記があった。

(6) 宿泊施設へのアクセスは何かを調べる

設問内容：貴施設へのアクセスはJRと自家用車いずれが多いですか

アクセス	回答数
JRが多い	//// //
自家用車が多い	//// //
同程度である	//// //





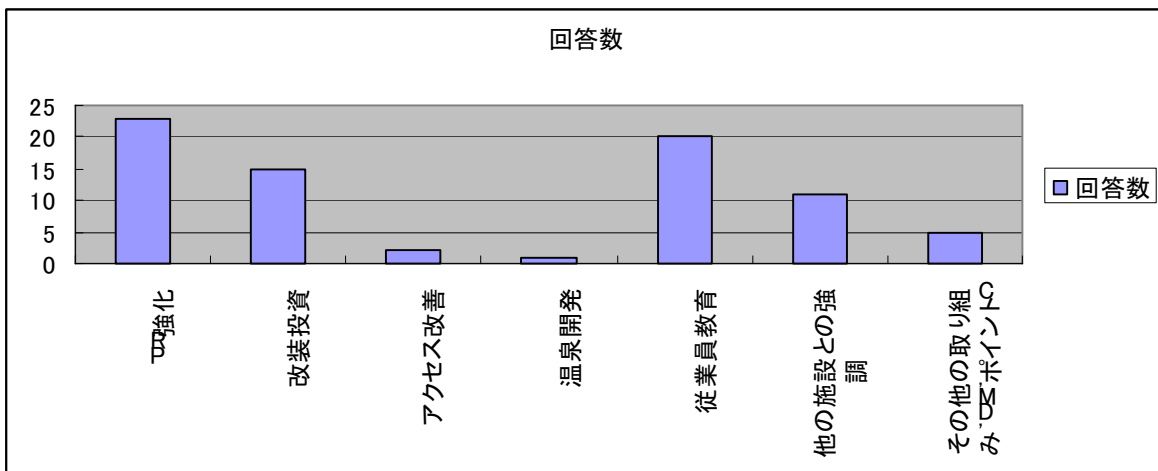
考察：

県内宿泊施設へのアクセスについては交通の便から自家用車のウエイトが高いが、琵琶湖線湖西線、北陸本線等の JR を中心としての利用客ウエイトも高い。琵琶湖一周の環状線 JR、県内私鉄各社の活用について一般道路事情も考慮し期待されていると考えられる。

(7) 入湯客・宿泊客増加のための施策を調べる

設問内容：入湯客・宿泊客増加のためにされている事は何でしょうか

思索内容	回答数	比率
PR 強化	//// // // // // // //	30%
改装投資	//// // // //	19%
アクセス改善	//	3%
温泉開発	/	2%
従業員教育	//// // // // //	26%
他の施設との強調	//// // // /	14%
その他の取り組み, DM, ポイント C	////	6%
合計		100%



考察：

今後の宿泊客増加、温泉入湯者増加に向けての施策に対して複数回答で質問している。PRを強化する直接的施策のウエイトが最も高く30%、ついで従業員教育の回答26%と続く。これらは施設改装への投資19%と共にサービスの質を高め、顧客満足への基本としての施設環境、従業員教育に力を入れ、リピート顧客獲得への強い思いと積極的な活動が伺える。

## 2. アンケートから見る今後への課題と期待

アンケートでは滋賀県や地域商工会などに期待することは何かについて自由記載をお願いした。その記載内容は以下の28項目であった。

- イ) 大規模なイベントの誘致、企画
- ロ) 目玉になる観光スポット作り
- ハ) 宿泊施設の利用促進
- ニ) 積極的な観光客誘致に努力してほしい
- ホ) 地域に密着してアンケート等情報をとって企画指導してほしい
- ヘ) 各種大会、コンベンションの誘致活動
- ト) 各自の地域のみを販売するのではなく広域及び琵琶湖を販売する体制づくり
- チ) バスの駐車場がない
- リ) 長期的なビジョン、大型設備投資の補助
- ヌ) 大津市役所の移転地について早急に結論を出して欲しい、決定されない状態で設備投資ができない
- ル) 浜大津を観光の景勝地として残すかどうか
- ヲ) 湖周道路の公共乗物の導入
- ワ) JR 堅田駅、守山間の琵琶湖横断鉄道の設置
- カ) 工場、学校の誘致
- ヨ) 観光中心でなく、会議、研修施設のPRもしていただきたい
- タ) 観光客などに対する宿泊施設のPRなど
- レ) 滋賀に来たくなるイベント、PRを期待する
- ソ) 滞在型スポーツ観光に力を入れれば経済効果は出ます（日帰りは絶対駄目）
- ツ) リゾート型宿泊、たとえばコンドミニアム、コテージなどを充実させる
- ネ) バストイレ付、長期レンタル制度、リッチなスタイルの提案を行う
- ナ) 沖縄やハワイ、グアム、サイパンなどを参考にした観光の開発を期待する
- ラ) 夢のある県、町づくりの提案

ム) 観光客の誘致に向けた地域の活性化の推進

ウ) 平成 19 年国宝彦根城 400 年祭を「面」で集客するために情報、営業、商品作りをいかに連携して行うかが大切である

卅) びわこのアピール（滋賀よりびわこでアピールしてほしい）

ノ) もう少し活性化を図り元気な商いをしてほしい

オ) 湯めぐりの出来るようにしてください

ク) 連携をしてブランド構築

宿泊施設としての思い、期待、要望など積極的な意見が多く、記載データと共にこの意見の中から今後への課題を見出すことができる。

(1) 観光客誘致に向けての活性化を行政に期待

県当局や地域の商工会議所、商工会、商店街等に期待するものとして広域的な活動、夢ある県、町づくり、施設の誘致や利用促進への施策への期待が込められている。

(2) PRを積極的に行う課題

宿泊、温泉施設のPR、びわこPRによる広域的な活動、会議、研修施設のPRなども併せて、面での活動への期待がある。

(3) イベントを実施する課題

四季を通じてイベントの実施が観光客誘致に繋がることの思いが表されていることから更なるイベントの実施、利用施設の充実、滋賀県でないと出来ない、滋賀に来たくなるようなイベントの開発実施も課題として挙げられる。

(4) アクセスを整備改善する課題

アンケート結果では鉄道、自動車同程度とする意見も多いが宿泊するとしての駐車場確保、鉄道駅からの便利なアクセス、巡回バス等は地域ぐるみでの課題と思われる。

(5) 個々の地域のみでなく広域的に活動する課題

県下広域の活動に期待する意見がある。地域、地区エリごとの活動から県全体一丸となつてのイベント、地域連携に期待する結果であり、びわこ周回道路、びわこ環状JR活用に期待が高い。

### 第3章 各種統計結果から見た滋賀県の観光の現状

#### 1. 観光入込み客統計調査結果の分析と課題

滋賀県を訪れた観光客の動向について、毎年行われている滋賀県商業観光振興課による観光入込客統計調査結果に基づき、5年前をベースとしての推移と変化に対する特徴を調査・分析し考察した。

##### (1) 滋賀県の観光入込客5年間推移とその特徴

(単位：人)

客層	平成13年	平成14年	平成15年	平成16年	平成17年	17/13年比
日帰り客数	40,797,500 92.7%	40,824,900 92.7%	39,310,200 92.9%	40,676,100 93.0%	40,105,200 93.0%	0.99
宿泊客	3,197,300 7.3%	3,168,100 7.3%	2,981,800 7.1%	3,005,800 7.0%	3,013,800 7.0%	0.94
延客数合計	43,994,800 100%	43,993,000 100%	42,292,000 100%	43,681,900 100%	43,119,000 100%	0.98

考察：

この5年間の推移から平成14年を最高、翌15年を最低として幾分変化はあるものの、延観光客の増減傾向はないが、宿泊客については減少傾向を示し5年前より平成17年は5.7%の減少が見られる。日帰り客が圧倒的に多く、宿泊客が10%にも満たない動向が明確である。

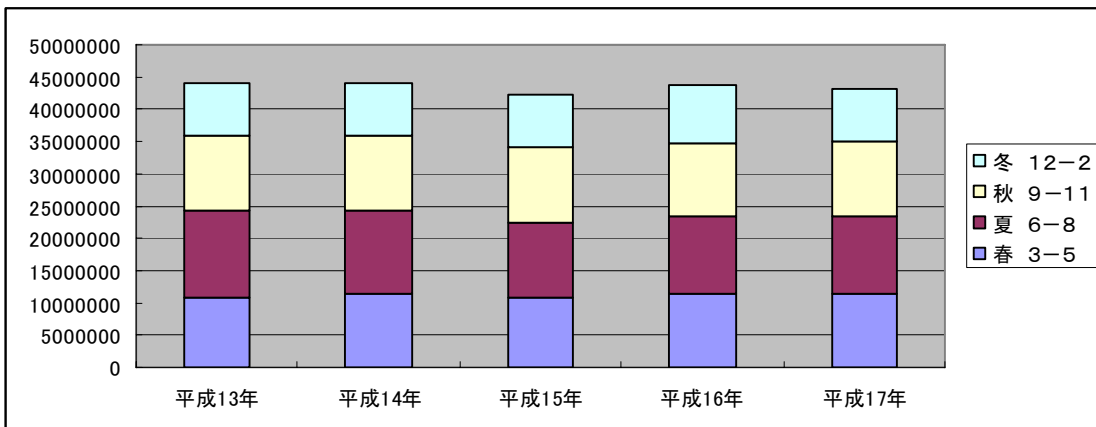
##### (2) 目的別観光客数の5年間推移とその特徴

目的	平成13年	平成14年	平成15年	平成16年	平成17年	17/13年比
慰安一般行楽 休養	23,386,800 53%	23,697,100 54%	23,116,700 55%	24,116,600 55%	23,764,300 55%	1.02
社寺文化財	9,020,200 21%	9,235,430 21%	8,819,900 21%	8,842,400 20%	8,972,900 21%	0.99
行事、見学研究	4,986,400 11%	4,607,500 10%	4,569,800 11%	4,400,800 10%	4,770,600 11%	0.96
運動スポーツ、 レクリエーション	6,601,400 15%	6,452,970 15%	5,785,600 13%	6,322,100 15%	5,611,200 13%	0.85

考察：目的を4区分に分けての目的別観光客5年間の推移データでは、一般行楽・休養が観光客の半数を超え、近年増加傾向を示していることから滋賀県の代表的な観光目的として定着している。一方、湖上スポーツ、スキースケート、登山ハイキング、ゴルフテニス等の運動スポーツ目的は5年間で減少傾向を示している。天候気候、利用できるスポーツ施設の変化が影響しているとも考えられる。

(3) 季節別観光客数の5年間推移とその特徴

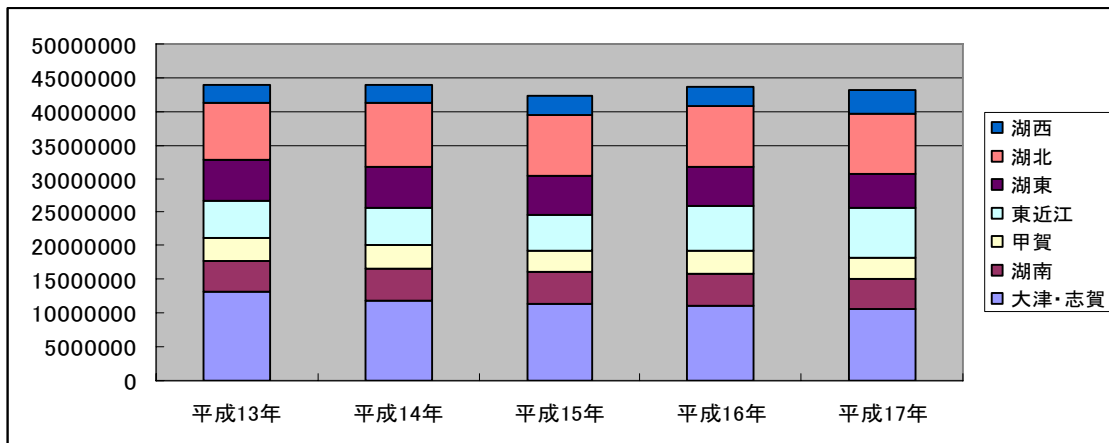
季節	平成13年	平成14年	平成15年	平成16年	平成17年	17/13年比
春 3-5月	10,901,900 25%	11,325,300 26%	10,666,200 25%	11,388,500 26%	11,368,200 26%	1.04
夏 6-8月	13,229,000 30%	12,859,600 29%	11,876,400 28%	11,841,500 27%	11,912,700 28%	0.9
秋 9-11月	11,693,300 26%	11,594,200 26%	11,714,300 28%	11,491,400 26%	11,672,200 27%	1.0
冬 12-2月	8,170,600 19%	8,213,900 19%	8,035,100 19%	8,960,500 21%	8,165,900 19%	1.0



考察：滋賀県観光でのシーズン性では琵琶湖を抱えてやはり夏場に多い特徴があるが、しかし年々そのウエイトは低下し、春、秋シーズンが安定的に通年観光の様相傾向を示して来ている。冬場の観光客数は低位平衡状態で推移している。これらは気候条件の変化、観光資源のニーズ変化による影響としても捉えることが出来る。

(4) - 1 滋賀県内の地域別観光の「延客数」の5年間推移とその特徴

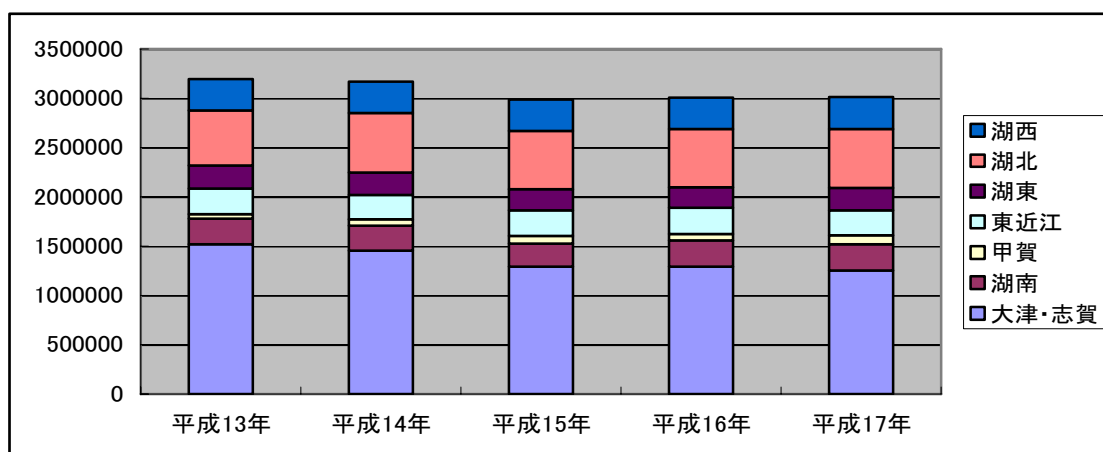
地域	平成 13 年	平成 14 年	平成 15 年	平成 16 年	平成 17 年	17/13 年比
大津・志賀	13,198,800 30%	11,849,500 27%	11,256,700 27%	11,042,600 25%	10,696,600 25%	0.81
湖南	4,603,600 10%	4,923,200 11%	4,760,700 11%	4,771,000 11%	4,322,900 10%	0.94
甲賀	3,425,000 8%	3,431,700 8%	3,306,400 8%	3,598,900 8%	3,182,500 7%	0.93
東近江	5,396,400 12%	5,465,500 12%	5,308,800 12%	6,539,300 15%	7,432,300 17%	1.38
湖東	6,101,900 14%	6,047,200 14%	5,660,700 13%	5,702,500 13%	5,017,600 12%	0.82
湖北	8,566,500 20%	9,427,800 21%	9,180,500 22%	9,169,000 21%	9,160,200 21%	1.07
湖西	2,702,600 6%	2,848,100 7%	2,818,200 7%	2,858,600 7%	3,306,900 8%	1.22



考察：滋賀県下地域別観光客の延数では大津・志賀地域が最も多く 25～30%弱、湖北地域が 20%で次に多い。しかし 5 年間の推移では観光客の多い大津・志賀が減少傾向を示し、東近江がこのところ増加傾向が著しい。湖北地区は第 2 位の観光延客数であるが 5 年間推移での増減変化は少なく安定している。

(4) ー2 滋賀県内の地域別観光の「宿泊者数」とその特徴

地域	平成 13 年	平成 14 年	平成 15 年	平成 16 年	平成 17 年	17/13 年比
大津・志賀	1,521,100 48%	1,456,000 46%	1,289,300 43%	1,288,000 43%	1,248,300 41%	0.82
湖南	257,700 8%	250,200 8%	235,400 8%	267,200 9%	268,200 9%	1.04
甲賀	45,200 1%	63,100 2%	80,000 3%	70,000 2%	90,600 3%	2.00
東近江	259,300 8%	248,500 8%	259,300 9%	260,800 9%	259,900 9%	1.00
湖東	233,200 7%	227,700 7%	216,400 7%	212,500 7%	219,900 7%	0.94
湖北	561,900 18%	605,100 19%	588,400 20%	591,700 20%	597,800 20%	1.06
湖西	318,900 10%	317,500 10%	313,000 10%	315,600 10%	329,100 11%	1.03
合計	3,197,300 100	3,168,100 100	2,981,800 100	3,005,800 100	3,013,800 100%	0.94



考察： 滋賀県内地域別観光客の宿泊者動向については上記（1）の分析結果にあるように延観光客の約 7%と少ない。その推移を見れば、延観光客数と同様に宿泊者は大津・志賀地区が最も多く、次いで湖北地区が多い。県下全地区の 5 年間の推移を見ると宿泊客は減少傾向に

あり、最も宿泊客が多い大津・志賀地区の減少が顕著である。一方湖北地区は逆に増加の傾向を示す特徴がある。宿泊施設の状況影響は大きいと思われるが宿泊する観光目的へ、新たな宿泊客増加に向けて温泉など観光資源の活用を進めるため示唆を示している。

本調査データに表記した滋賀県地域、地区エリアの詳細は社団法人 **Biwako Visitors Bureau** 出典の「滋賀県全体地図」を目次の前のページに添付しているので参照されたい。

#### (5) 5年間の推移からの分析結果と課題

- ① 圧倒的に多い日帰り観光入り数（93%）、および宿泊観光客の減少に歯止めをかける観光資源の活用と新規増加施策が課題である。

滋賀県下には風光明媚な琵琶湖を始め周辺を囲む美しいスポーツに最適な山々、神社、仏閣、花鳥風月の観光資源、加えて歴史ある雄琴温泉も存在している。観光客入り数は多いものの通過客、即ち宿泊に繋がらない観光客、京都に近いこともあって宿泊の魅力が乏しいのか日帰り観光になる要素が多い。

- ② 数年間の観光客入り数伸びが停滞していることへの新たな滋賀県の観光資源の魅力化施策である。

観光行動はその地の観光資源の魅力が観光客の観光目的とリンクしたときに行動が発生する。観光客入り数が伸び悩むということは、滋賀県下の観光資源の魅力が昨今の情報化手段においても認識が弱い要因が考えられる。

- ③ 季節的には冬期の入り数が少なく、夏季中心である現状から、四季を通じた増加施策が課題である。

冬場季節 12月～2月の観光客入り数に対して、ウインタースポーツであったスキー、スケートの県内施設への期待は、気候変化や施設の減少などが作用し低迷が続いている。

県内に点在している冬場の温泉資源をクローズアップし広範囲に活用する観光施設の更なる充実、PR強化も一策と考えられる。

- ④ スポーツ、レクリエーションに関わる観光客の増加施策が課題である。

年齢を問わず滋賀で遊べる、楽しめる、身体を鍛えられる、癒される、スポーツ・レクリエーション設備を開放、充実により、イメージ定着などの具体的施策も効果的と考えられる。

- ⑤ 地域別には、南部の大津・志賀、湖北地域に偏重している観光客の全県的な誘致施策が課題である。

長浜を中心とする湖北地区の観光整備の成功事例を教訓として、県下観光資源の特徴ある再発掘に課題解決の一端が伺える。



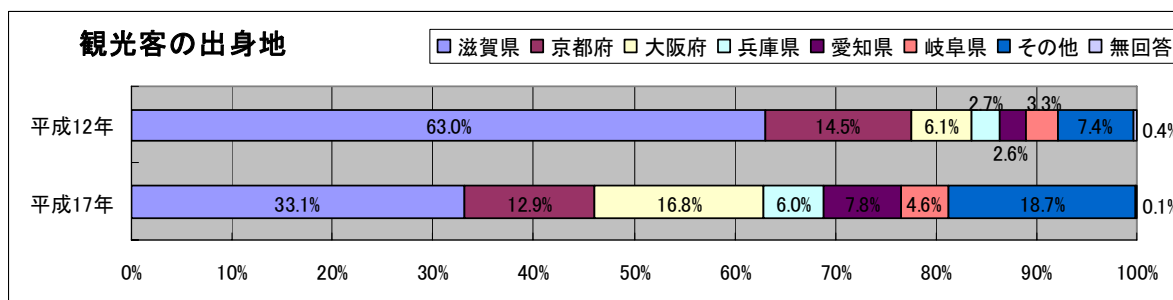
- ⑥ 「一般行楽」に含まれる一つの要素である滋賀県下にて点在する温泉資源活用による施策が課題である。

滋賀県下の各地域エリアには本報告書添付資料にあるように良好なる温泉、温泉施設、宿泊施設が点在している。これらの存在 **PR** と共に施設の充実により温泉めぐり、スポーツとの連携など容易に老若男女が利用し、宿泊できることへの広域的整備も課題として挙げられる。

## 2. 観光動態調査から見た滋賀県観光の現状

滋賀県が平成 17 年に行った「滋賀県観光動態調査～観光消費による経済波及効果の推計～」に基づき滋賀県観光の現状について分析した。この調査は、県内の観光地 62 地点延べ 200 ヶ所（冬季・春季・夏季・秋季 各 50 ヶ所）において、その地を訪れた観光客にアンケート票を配布、「面接・自記入法」によって行われており、同様の調査が平成 12 年にも実施されていることからそれとも比較、検討した。

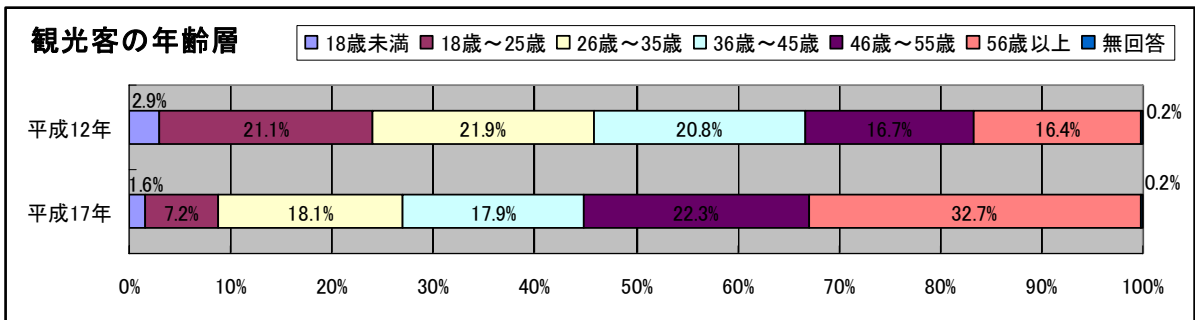
### (1) 観光客の特徴



調査年度	滋賀県	京都府	大阪府	兵庫県	愛知県	岐阜県	その他	無回答
平成 12 年	5,906 人	1,355 人	576 人	252 人	246 人	308 人	696 人	37 人
平成 17 年	3,107 人	1,208 人	1,582 人	567 人	735 人	430 人	1,751 人	14 人

考察：

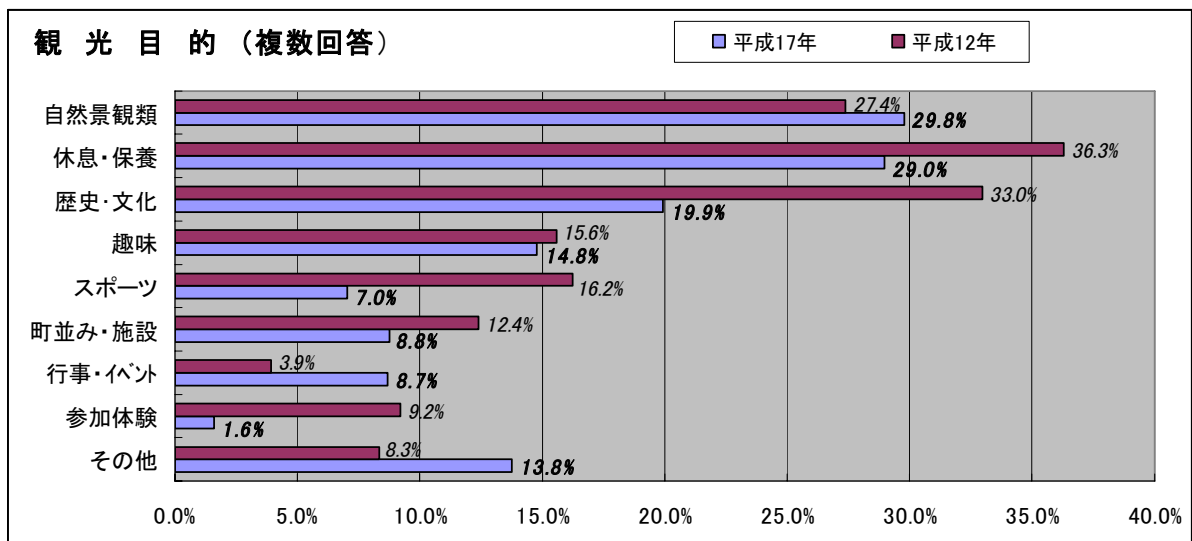
滋賀県への観光客の特徴をつかむため、サンプルの構成の中からまずアンケート回答者の住所地に着目したところ、県内居住者を除く回答者の出身地では、大阪府が最も多く、次いで京都府、愛知県、兵庫県、岐阜県の順となっている。平成 12 年の調査では半分以上を占めていた県内居住者の割合が半減している点が気になるものの、逆に他府県からの観光客が大幅に増加していることについては好感できる結果となっている。また、隣県の京都府が微減したのに対し大阪府や愛知県からの来県は 3 倍近くに増加、兵庫県も倍増するなど近畿圏や中京圏への広がりを見せているとともに、その他の地域においても関東以北や中国以西等の遠方からの観光客が増加を示すなど、滋賀県観光は全国的にも広がる兆候が現れているものと見受けられる。



調査年度	18歳未満	18～25歳	26～35歳	36～45歳	46～55歳	56歳以上	無回答
平成12年	269人	1,978人	2,056人	1,950人	1,563人	1,540人	20人
平成17年	15人	677人	1,696人	1,682人	2,095人	3,068人	22人

また、その年齢層を見ると56歳以上が最も多く、次いで46歳～55歳で中高年層が半数以上を占める状況となっている。この結果は、今後団塊の世代が定年退職を迎えるとともに観光ニーズがより高まるものと言われていることから、滋賀県観光の更なる増加が期待できるという点では好感できるものの、平成12年の調査では18～25歳、26～35歳、36～45歳といった若年層および壮年層が夫々20%程度で合計で半数以上を占めていたにもかかわらず、いずれの層も減少し、特に25歳以下の若年層が大幅に減少している点が大変気がかりな結果となっている。

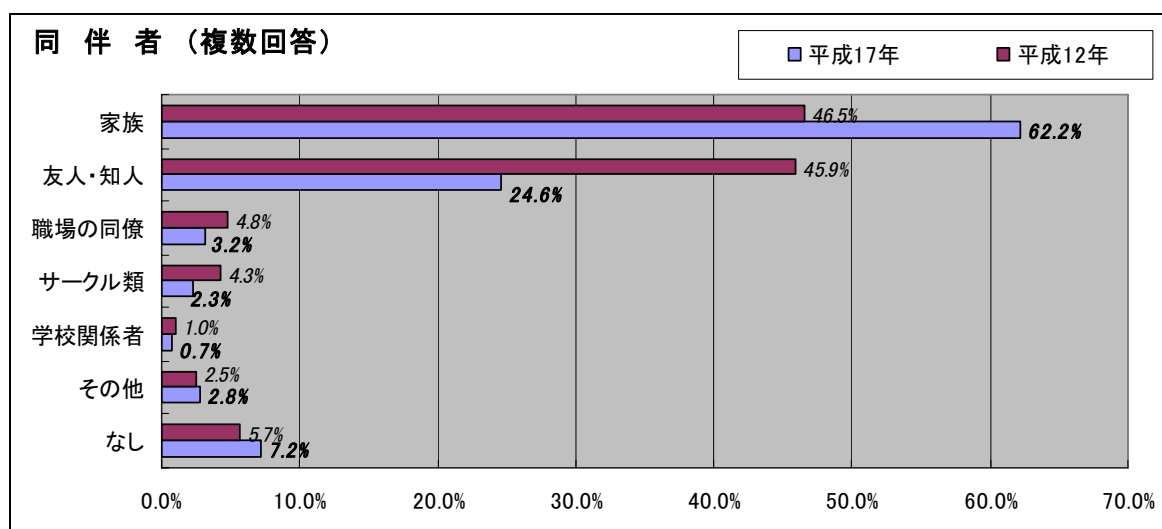
## (2) 観光の目的



調査年度	自然景観	休息保養	歴史文化	趣味	スポーツ	町並施設	行事イベント	参加体験
平成 12 年	2,570 人	3,401 人	3,092 人	1,462 人	1,522 人	1,161 人	370 人	858 人
平成 17 年	2,804 人	2,726 人	1,870 人	1,393 人	656 人	822 人	813 人	150 人

考察：

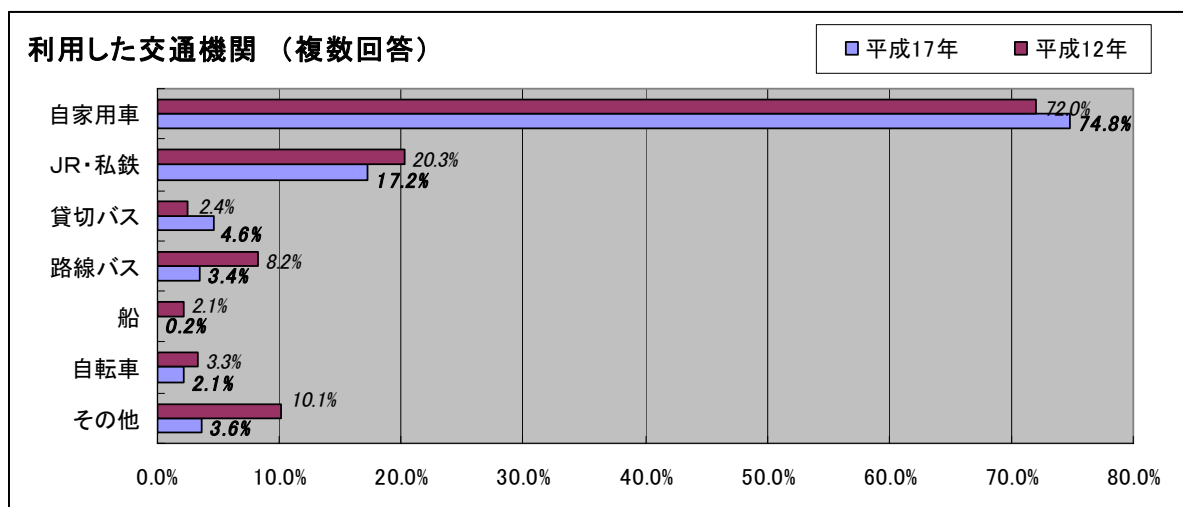
滋賀県観光の目的の調査では「自然景観類」および「休息・保養」という回答が夫々3割弱を占め、滋賀県の美しい自然や景観が「癒し」的な色彩をかもし出し休息や保養に適しているものと考えられる。また、「歴史・文化」といった遺産的な価値のある観光地が多いことも高く評価されているものと考えられるが、平成12年の調査に比べると大幅に減少していることから、それらの観光地の魅力をさらに引き上げる仕掛けの検討も必要と思われる。一方、「スポーツ・運動類」、「参加体験」は大幅に減少しており、比較的時間を要するものに対する客離れと前項での若年層の減少が大きく影響している現れと思われる。



調査年度	家族	友人・知人	職場の同僚	サークル類	学校関係者	その他団体	なし
平成 12 年	4,358 人	4,301 人	446 人	406 人	93 人	230 人	538 人
平成 17 年	5,840 人	2,311 人	303 人	220 人	62 人	267 人	675 人

また、観光客の同伴者を見ると「家族」が半分以上を占め、その割合は平成12年に比べ大幅に増加しており、家族とともに休日を過ごすことが主目的となっている観光が増加していることを示しているものと思われる。一方、「友人・知人」、「職場の同僚」、「サークル類」についてはいずれも減少するなどこれが若年層減少の最大要因であるものと考えられる。

(3) 観光客の交通手段

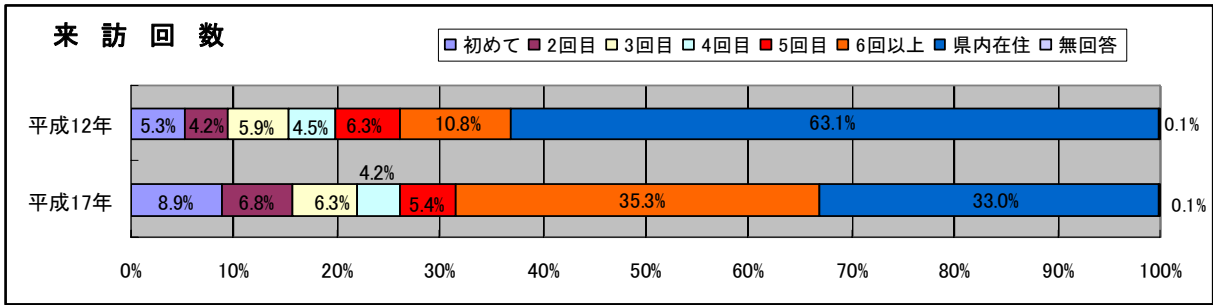


調査年度	自家用車	J R	私鉄	貸切バス	路線バス	船	自転車	その他
平成 12 年	6,755 人	1,453 人	453 人	222 人	765 人	197 人	308 人	951 人
平成 17 年	7,025 人	1,390 人	227 人	428 人	317 人	19 人	193 人	337 人

考察：

利用した交通機関の回答では、「自家用車」が 74.8%と圧倒的に多く、平成 12 年に比べても増加している。この質問は利用した交通機関を尋ねていることから、観光地への交通手段だけではなく観光地で利用したものも含む複数回答であるものの、この結果から滋賀県へのアクセスはほとんどがマイカーを利用していることがわかる。また、次に多い回答は「J R」であるが、平成 12 年に比べ「私鉄」や「路線バス」も含め減少しており、公共交通機関が観光地への移動に向いていないことが予想される。一方、「貸切バス」についてはほぼ倍増しており、団体のバス旅行については増加に転じていることが窺われるが、船や自転車は大幅に減少していることから、湖上観光やサイクリング等の時間を要する観光については敬遠される傾向にあることが推測される。

(4) 観光のリピーター率

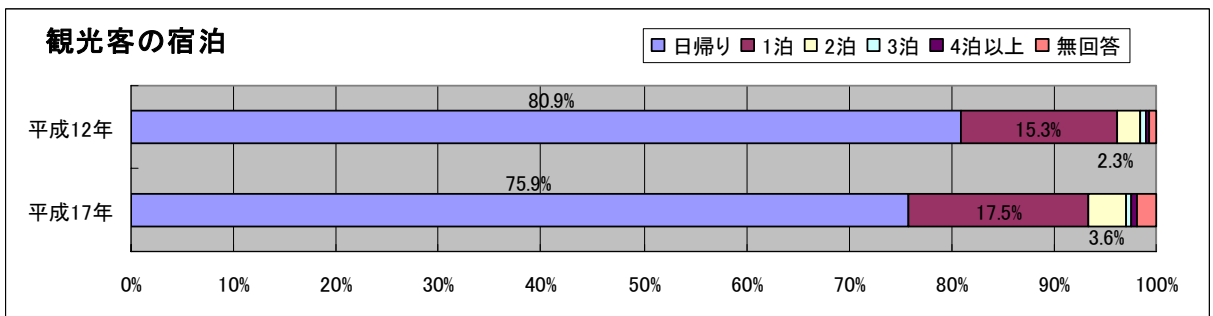


調査年度	初めて	2回目	3回目	4回目	5回目	6回以上	県内在住	無回答
平成12年	495人	392人	550人	421人	587人	1,013人	5,912人	6人
平成17年	836人	640人	595人	395人	508人	3,315人	3,096人	9人

考察：

観光客を安定的に増加させていくためには、来訪した観光客に再訪を促すことが大きく影響するが、滋賀県への観光回数を見てみると、県内在住の者を除き6回以上という層が大幅に増加している結果が出ている。このことから判断すると、他府県から滋賀県へのリピーター率は大変高く、しかもその回数も非常に多いことがわかる。なお、県内在住者の数が大幅に減少した要因はこの調査だけでは判断できないものの、他府県からの来訪で、「初めて」または「2回目」と回答した人も増加していることから、これらの層をいかに複数回来訪させるかが今後のカギとなってくる。

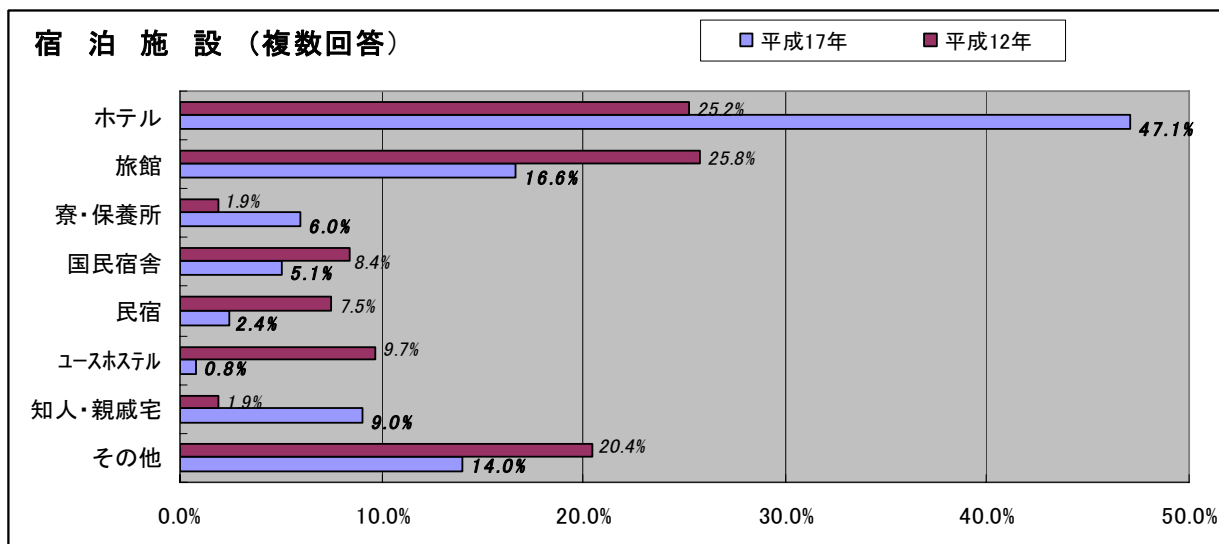
(5) 観光客の宿泊



調査年度	日帰り	1泊	2泊	3泊	4泊以上	無回答
平成12年	7,583人	1,431人	214人	44人	35人	69人
平成17年	7,132人	1,646人	338人	43人	52人	183人

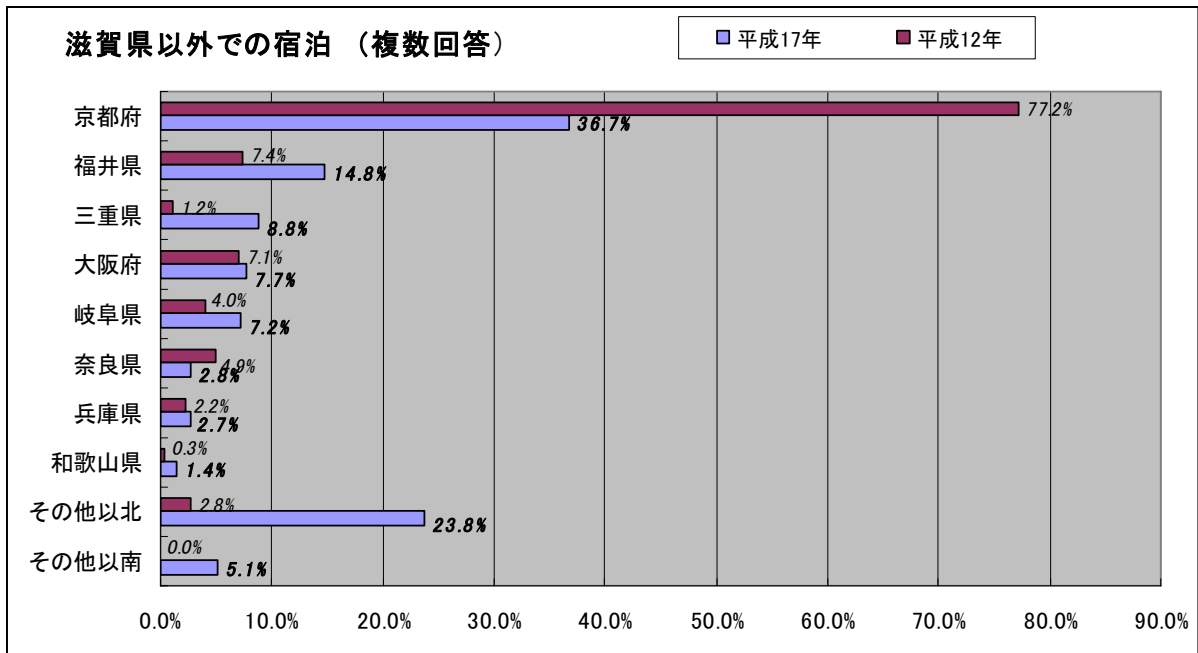
考察：

宿泊する観光客は全体の20%程度しかなく、滋賀県の観光は大部分が日帰り観光であることがわかる。平成12年度の調査と比べると宿泊すると回答した人は若干増加しているものの、ほとんどが1泊に留まっている。



調査年度	ホテル	旅館	寮保養所	国民宿舎	民宿	ユースホステル	知人親戚	その他
平成12年	434人	445人	32人	145人	130人	33人	167人	352人
平成17年	980人	346人	124人	107人	50人	16人	187人	291人

次に、宿泊すると回答した人の宿泊施設についての調査では、約半数が「ホテル」を利用しており、平成12年に比べほぼ倍増した結果となっている。一方、「旅館」、「国民宿舎」、「民宿」、「ユースホステル」等の利用者は総じて減少しているが、これはそれらの施設数の増減や老朽化等も影響をしているものと予想される。



調査年度	京都府	福井県	三重県	大阪府	岐阜県	奈良県	兵庫県	和歌山県
平成12年	250人	24人	4人	23人	13人	16人	7人	1人
平成17年	287人	116人	69人	60人	56人	22人	21人	11人
	その他以北		その他以南					
平成12年	9人		0人					
平成17年	186人		40人					

また、滋賀県以外で宿泊された方の都道府県を調査した結果では、隣県の京都府が多いものの平成12年度の調査に比べ大幅に減少、逆に福井県やそれ以北での宿泊が大幅に増加する結果となっている。前回の調査回答件数が少なく、今回の回答件数も多くないことから正確な分析はできないものの、近隣他府県で宿泊し滋賀県に來訪する観光客も増加していることは間違いないものと考えられ、これらの客層を取り込むことにより宿泊客の増加は十分可能であるものと考えられ、そのためには宿泊施設の充実や魅力アップ等を図る必要があるものとする。

#### (6)分析結果と課題考察

- ① 滋賀県内居住者の県内観光離れ
- ② 若年層および壮年層の県内観光離れ
- ③ 観光客の滞在時間の短縮（スポーツや参加体験を目的とする観光の減少）
- ④ 日帰り観光中心で、宿泊客が少ない
- ⑤ マイカーによる家族旅行への偏り
- ⑥ 旅館、民宿等の客離れ



## 第4章 滋賀県観光資源のSWOT分析

### 1. 滋賀県観光資源のSWOT分析と展開策

#### (1)強みと弱みの抽出

	強み	弱み
住民イメージ調査より	<input type="checkbox"/> トレッキング、登山などの山のスポーツ、ヨット、ボート、水泳などの水のスポーツ、スキーなど冬のスポーツ、テニスなどの球戯スポーツなど、滋賀は四季を通して多彩なスポーツが楽しめる <input type="checkbox"/> 本格的な山、湖、川、里など豊富な自然が身近に存在する <input type="checkbox"/> 歴史や伝統のある寺社や名所旧跡が豊富である <input type="checkbox"/> 京都、大阪、北陸、中部の交通の要所であり、移動に便利である <input type="checkbox"/> 近江牛、近江米、鴨鍋、ふな寿司、湖魚料理など名物がある <input type="checkbox"/> 和歌山県、福井県、岐阜県からみた魅力度が高い県である <input type="checkbox"/> 京都府からみた魅力も高い	<input checked="" type="checkbox"/> 温泉に対する評価が低い 施設の規模、街の雰囲気づくり、知名度が低い、PRが弱い <input checked="" type="checkbox"/> 宿泊させる力が弱い 宿泊施設における魅力の低下、泊まっても食べたい地場の食材が少ない、イベントなどが少ない、遊園地がない、 <input checked="" type="checkbox"/> 滋賀県民にも県内の観光資源が知られていない <input checked="" type="checkbox"/> 何度も食べたいという名物料理が少ない <input checked="" type="checkbox"/> 遊園地がない <input checked="" type="checkbox"/> 広報力、パブリシユメントが少ない（イメージの定着力が弱い） <input checked="" type="checkbox"/> 交通の便が良いので日帰りが多い <input checked="" type="checkbox"/> 中部地方に対する強みが少ない
宿泊施設調査より	<input type="checkbox"/> 改装など意欲的な投資活動がある <input type="checkbox"/> 従業員教育に熱心である	<input checked="" type="checkbox"/> 中部圏からの利用客が少ない <input checked="" type="checkbox"/> 入浴目的の客が少ない <input checked="" type="checkbox"/> 全国的なイベント、国際的なコンベンションが少ない
統計調査より	<input type="checkbox"/> 慰安、休養目的に適した環境 <input type="checkbox"/> 中高年客が増加している <input type="checkbox"/> ファミリーが増加している <input type="checkbox"/> リピート客が増加している <input type="checkbox"/> 湖西、湖南、湖北の観光客増加 <input type="checkbox"/> 大阪、京都の観光客が多い	<input checked="" type="checkbox"/> 宿泊者の割合が少ない <input checked="" type="checkbox"/> スポーツ施設が減少 <input checked="" type="checkbox"/> スポーツ・参加型観光が減少 <input checked="" type="checkbox"/> 大津・志賀地域客が減少 <input checked="" type="checkbox"/> 長期滞在は少ない <input checked="" type="checkbox"/> 若年層の観光客が減少
検討会より	<input type="checkbox"/> 全国でも有数の環境保護に熱心な県であり、水、空気がおいしい <input type="checkbox"/> 歴史資産が多い <input type="checkbox"/> 日本最大の湖 琵琶湖がある <input type="checkbox"/> 雄琴温泉を有する <input type="checkbox"/> 公園、運動場が広くて多い <input type="checkbox"/> びわこ環状線が開通し利便性が向上した	<input checked="" type="checkbox"/> 夜間のスポーツ施設が少ない <input checked="" type="checkbox"/> 夜間の観光施設が少ない <input checked="" type="checkbox"/> 温泉街らしい街が少ない <input checked="" type="checkbox"/> 「びわこ」以外に知名度が少ない <input checked="" type="checkbox"/> スポーツを正しく教える人材、環境が整備されていない <input checked="" type="checkbox"/> 滞在型の観光資源がない

(2) 滋賀県観光資源の機会と脅威

	機 会	脅 威
保有資源	<input type="checkbox"/> どの地域でも水を活用した観光資源の開発が可能 ヨット、ボート、水泳、など <input type="checkbox"/> 周囲を比良山系、鈴鹿山系、伊吹山に囲まれ、山岳スポーツ、スキーなどができる <input type="checkbox"/> 湖東・湖南地域は平地が多くサイクリングに適した地形 <input type="checkbox"/> 温泉が全県的に分布している	<input checked="" type="checkbox"/> 琵琶湖の環境保護のため、琵琶湖で行うスポーツは制約されやすい <input checked="" type="checkbox"/> 天候に影響されやすい
社会・経済環境	<input type="checkbox"/> 高齢化の進展で 60 才以降の人口が増加 <input type="checkbox"/> 健康を自己管理する時代への変化 <input type="checkbox"/> 余暇時間が増える <input type="checkbox"/> 子供を育てやすい環境が求められている <input type="checkbox"/> 家族、地域といった社会的連帯意識の強化が求められている <input type="checkbox"/> 年金を満額もらえる時代に突入 <input type="checkbox"/> 滋賀県の人口は増加傾向 <input type="checkbox"/> 環境立県を推進している	<input checked="" type="checkbox"/> 若年層が減少 <input checked="" type="checkbox"/> 高齢者負担の増加が予想 <input checked="" type="checkbox"/> 各家族化が進む。高齢者世帯、高齢者単身世帯が増加 <input checked="" type="checkbox"/> 車がないと県内移動が不便 <input checked="" type="checkbox"/> 年金不安があり、経済的弱者が増加する心配がある
地域性	<input type="checkbox"/> 大阪、京都など都市部からの交通の便がよい <input type="checkbox"/> 北陸、中部からも交通の便がよい <input type="checkbox"/> 大津・湖南、湖西、湖東、湖北と地域の特徴が明確 <input type="checkbox"/> 四季がはっきりしている	<input checked="" type="checkbox"/> 大阪、京都、神戸など吸引力の大きい都市部に観光客が取られる <input checked="" type="checkbox"/> 典型的な「地方」に個性で差別化される <input checked="" type="checkbox"/> 中部から大阪方面への通過県になりやすい <input checked="" type="checkbox"/> 大阪、京都に勤務する人が多く、滋賀県民意識が育ちにくい <input checked="" type="checkbox"/> 琵琶湖が真ん中にあるため、滋賀県内の移動が不便である

(1) (2) 項で滋賀県の強み(S)と弱み(W)、機会(O)と脅威(T)について主要因を抽出した。次に、それぞれの強み(S)、弱み(W)、機会(O)、脅威(T)のなかから重要な要因を抽出し、クロス SWOT 分析を行った。

クロス SWOT の見方と展開策の考え方を、次の図に示す。

図. 展開策の見方と考え方

	強み	弱み
機会	① 強みと機会を活かし、さらにコアコンピテンシーを活用するにはどうするか	② 機会を活かし弱みを強みに転換するにはどうするか
脅威	③ 脅威に対応し、強みを活かすにはどうするか	④ 弱みを転換し脅威に対応するにはどうするか

象限①では、成功の機会を有効活用し、現在の強みをさらに強めるのはどうするか、という展開策を検討した。

象限②では、弱みはあるものの、機会を活用することで、弱みを強みに変えるにはどうすればよいかという視点で検討した。

象限③では、脅威に対応し、強みを活かして成長しつづけるためにはどうするか、という視点で検討した。

象限④では、弱みを転換したり、マーケットを絞ることで競争優位を実現し、脅威に対応するためにはどうするか、という視点で検討した。

今回は 4 人のメンバーで数度の検討会を経て、次の具体的な展開策をまとめることができた。

(3) クロスSWOT分析と展開策の提言

	<p style="text-align: center;"><b>強み</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・四季を通して多彩なスポーツが楽しめる</li> <li>・豊富な自然が身近に存在移動に便利</li> <li>・慰安、休養目的に適した環境</li> <li>・中高年客、ファミリーが増加</li> <li>・リピート客が増加</li> <li>・大阪、京都の観光客が多い</li> </ul>	<p style="text-align: center;"><b>弱み</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・温泉に対する評価が低い</li> <li>・宿泊させる力が弱い</li> <li>・夜間に遊ぶ場所、夜間観光名所がない</li> <li>・滋賀県民に県内の観光資源が知られていない</li> <li>・中部地方に対する強みが少ない</li> <li>・スポーツ・参加型観光が減少</li> </ul>
<p style="text-align: center;"><b>機会</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・琵琶湖を囲む地理的優位性</li> <li>・高齢化の進展で60才以降の人口増加</li> <li>・家族の大事さが見直される</li> <li>・健康を自己管理する時代</li> <li>・都市部からの交通の便がよい</li> <li>・4地域の特徴が明確</li> <li>・地域活性化ファンドの設置</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○四季ごとに4地域の特徴を活かしたスポーツ・運動月間を設ける。その期間中は、活用できる施設や設備の情報提供を重点的に行う</li> <li>○自然を活かした健康教室、家族教室を開催し、ファミリー層が安く長く楽しめるようにする</li> <li>○その人にあった運動を医療機関や健診センターで評価し科学的に健康増進を図る</li> <li>○サイクリングやスポーツを初心者から上級者まで楽しめるようマニュアル作りや指導を行う</li> <li>○シニアリッチ層の期待に応えられる設備、サービスを提供する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○温泉旅館やホテルが、地域のスポーツ施設や健康増進施設と連携し、送迎や予約、情報提供を行い、小地域活動として観光客を誘引できる魅力作りを行う</li> <li>○温泉街らしい雰囲気作り、街づくりを行う</li> <li>○夜間にできるスポーツや施設を利用できるように行政や地域で取り組む</li> <li>○県民が健康増進のためのスポーツや運動に取り組むための啓蒙活動や住民への支援を行う</li> <li>○大阪一名古屋の中間地点としての道の駅で温泉を活用し疲れをとってもらう</li> </ul>
<p style="text-align: center;"><b>脅威</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・県内の移動が不便</li> <li>・若年層が減少する。</li> <li>・高齢者負担の増加が予想される。</li> <li>・社会的連帯意識の希薄化が進む。</li> <li>・大阪、京都、神戸など吸引力の大きい都市部に観光客が取られる</li> <li>・典型的な「地方」に差別化される</li> <li>・中部から大阪方面への通過県になりやすい</li> <li>・滋賀県民意識が育ちにくい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○何度も来てもらえるように、4地域の特徴を明確にする。</li> <li>○四季を通じて様々なファミリースポーツや運動ができるよう情報提供や環境を整備する</li> <li>○安全に、かつ本格的に家族でスポーツが楽しめるよう指導する人材育成と環境整備を進める</li> <li>○大阪や京都とは異なったコンセプト、キャッチフレーズを全国に浸透するまで発信する。(例：近江商人・三方良し)</li> <li>○安近短の良さに徹底する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○若年層のなかを細分化し、若年のファミリー層に絞ったマーケティングを行う。</li> <li>○若年ファミリー層が、安全・安心・安価に楽しめる支援策を、行政、民間団体等が連携して提供する</li> <li>○大阪一名古屋の中間地点としての道の駅で温泉を活用し行き帰りの疲れをとってもらう</li> <li>○宿泊客の増加を期待するだけでなく、まずは滋賀県内へ来てもらう、また来てもらった人に滞在時間を延ばしてもらうため、足湯パブリックスペース、夜間客向けのサービスステーションを各4地域で拠点整備を行う</li> <li>○県民の運動増進活動にホテル・旅館やスポーツ団体等、および行政が利用券やポイントを提供する</li> </ul>

(4) 観光戦略の基本コンセプト

各展開策を実施するには、全体を統合する「基本コンセプト」が必要である。すべての要素を包含し、かつ今後の観光戦略の方針になるものが求められた。

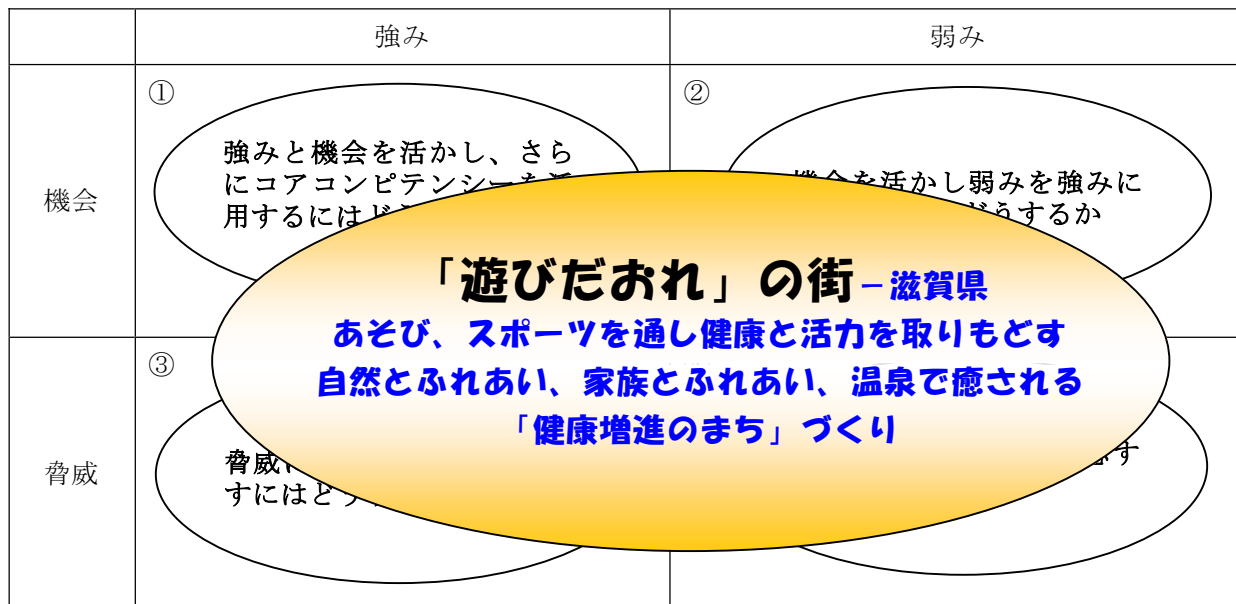
私たちのこれまでの検討のなかで、いくつかの重要なキーワードが抽出された。

滋賀県は、古来より近畿の一角に位置し、商都大阪、政都京都との関わりが深い。商都はヒト、モノ、カネが行き交い交易の前線となる一方で、海に面し攻撃や病気の侵入に遭いやすいリスクも抱えていた。また、政（まつりごと）の中心として商都から一步下がった位置であった京都は歴史や文化の宝庫として位置づけられている。

近代では、大阪は「食いだおれ」の町として、庶民の味から高級料理、世界各国の料理が集まり、厳しい競争環境のなかで、「うまいもん」を提供している。京都は、「着だおれ」の町として、呉服屋が全国で最も多く、街中でも着物女性を多く見かける。観光客向けには、舞妓衣装のサービスなど「着だおれ」コンセプトを活かした活動が行われている。

滋賀県はというと、全県の代名詞となるコンセプトは見当たらない。滋賀県＝「びわこ」という反応は非常に多いが、「びわこ」はモノであって、コトではない。そこで、私たちは、次の基本コンセプトを提言することとした。

図. 滋賀県観光イメージの基本コンセプト



「遊びだおれ」とは、テレビゲームや環境に悪影響を与えるような遊びではない。琵琶湖や瀬田川などでのボート、カヌー、ヨット、比良山や伊吹山などの山登り、ハイキング、湖東三山サイクリング、びわこウォーキング、などを中高年者が気兼ねなく楽しめることである。当然、中高年者だけでなく、若者ファミリーも、小さな子供も一緒に楽しめる安全、安心で本格

的なスポーツを楽しめる県となることである。

スポーツをすれば汗をかく。また疲労もある。そこで、各地域に点在する温泉や旅館・ホテルを利用してもらい、心身ともに<癒し>を提供することを意図した。

滋賀県観光の最も多い目的は、「癒し、休養」である。さらに、社会保障改革の方向は、個人の健康増進、疾病予防に重点がおかれるようになってきた。

健全な「遊び」を家族連れ、中高年の方々に、四季を通じて提供し、何度でも来れる滋賀県を作れると考えた。交通の便がよいことは、大阪、京都、兵庫だけでなく中部方面からもリピーターが期待できる。

従来は、数時間の観光で日帰りで帰る観光客も、スポーツや遊びを体験し、食事や温泉を利用することで滞在時間が延長する。滞在時間の延長も、観光戦略の第一歩である。

宿泊客の増加も、県内の滞在時間の延長上に期待できる。

#### (5) 戦略実行上の課題

スポーツについては、「びわこスポーツ NOW」で、県内のスポーツ施設情報の提供を始め、スポーツインストラクターの養成などに取り組んでいる。「びわこスポーツ NOW」の目的は、「スポーツの振興を総合的に図り、県民の豊かなスポーツライフの実現を目指す」こととなっており、私たちのいう「健康増進のまち」と合致するようにみえる。

それらの取り組みとの違いは、「観光資源としての活用」と「県外住民も滋賀県に来て健康になる」という基本コンセプトの違いにある。

「びわこスポーツ NOW」で施設情報を検索しても、施設へのリンクと住所などの情報が提供されているが、いつどのように利用できるのか、宿泊施設はあるのかなど、施設に問い合わせをしなければならない。また、県外客が利用できるかどうかの情報はない。

滋賀県立琵琶湖漕艇場で開催される「親子ボート教室」もあるが、県外客が利用しようと思ったとき、駐車場や「親子ボート教室」を利用する前後の時間についての詳しい情報など知りたい情報は掲載されておらず、結局問い合わせを行うしかない。

そして、スポーツやボート教室を利用した後、家族がどのように滋賀県内で過ごせばよいか提案がない。

「エコロレーが」は、自然や環境学習の企画やプログラムづくりをするときに役立つ情報を満載しているが、来県客に向けた宿泊や近隣の観光資源の情報と連携していない。

旅館やホテルでは、寺社のパンフレットや連絡先程度は教えてくれるが、送迎サービスや自転車置き場の提供、そうした施設との食事や宿泊パッケージを提供していない。

よって、「遊びだおれの街」コンセプトの実現のためには、現在それぞれが提供しているサービスを観光資源として連携し、再構築する必要がある。

## 第5章 「遊びだおれ」コンセプトモデルの提案

「遊びだおれ」を具体的にどのように実現するのかを、「大津・湖南」、「湖西」、「湖東」、「湖北」の4地域に分けて提案した。ひとつの提案であって、各地域にはもっとたくさんの観光資源があり、アイデアもあるが、地域観光資源と温泉・宿泊施設の融合を図り、魅力ある地域のイメージを提案するものである。

### 1. 大津・湖南

大津・湖南におけるスポーツや運動に関する資源は多いが、ここでは（1）サイクリングと温泉資源、（2）医療と温泉資源の融合モデルについて提案したい。

#### (1) 大津・湖南におけるサイクリングと温泉資源の融合

しがサイクリングマップに紹介されているコースである。

琵琶湖の湖岸を楽しみながら様々な名所や町並みを楽しむことができる。

右図の〔1〕の大津港から出発し約21kmのコースとなる。

大津港では、観光船「ミシガン」や「ビアンカ」で遊覧や食事ができるほか、びわこホテルや浜大津アーカスでの食事やボーリングなども楽しむことができる。

〔3〕は瀬田の唐橋である。唐橋は、近江八景「瀬田の夕照」で知られ、朝焼け、夕焼けの景色は大変美しい。

さらに南下していくと、名所の石山寺があり、周辺には石山温泉、南郷温泉が点在する地域となる。



湖岸&旧東海道サイクリングコース  
(しがサイクリングマップより)



湖岸サイクリングロード

これまでであれば、このまま大津に帰り、サイクリングをして完了であるが、石山温泉や南郷温泉と融合することで、滞在時間の延長や宿泊して次の体験へと発展させることができる。

石山、南郷周辺には、瀬田川や湖南アルプスが近く、瀬田川でのカヌー体験や親子ボート体験と組み合わせたり、湖南アルプス登山と組み合わせることができる。これまでは、それぞれが個別にサービスを提供していたが、温泉や旅館というもうひとつの資源が接着剤となって、滋賀県の魅力をアップさせることができる。

サイクリングとボート、サイクリングと登山というスポーツは服装や利用する交通アクセスが異なるが、旅館側で、衣服のレンタルや自転車置き場の提供、ボート乗り場への送迎サービスなどを提供することで、利用客はそれぞれの用意をしなくても、体験と感動のみを味わうことが出来るようになる。



南郷温泉付近の  
サイクリングロードと瀬田川

石山、南郷温泉の街づくりに関しては、温泉街らしさの演出が必要である。各温泉独自で行うだけでなく、市や県も温泉街としての街づくりの支援をお願いしたい。

例えば、京阪石山駅から南郷方面にかけて、公共の足湯スペースをいくつか設置することを提案したい。サイクリングや登山、ウォーキングで疲れた足や身体を休めたり、地元や観光客同士の交流の拠点となるであろう。

## (2) 健康を支援する人材の育成と温泉旅館

滋賀医科大学睡眠学教室が行っている「睡眠指導士」育成事業と南郷・石山温泉資源の活用モデルとしては、「睡眠指導士」の会場提供や「睡眠時無呼吸検査」の検査場所の提供を旅館が行うことができる。「睡眠時無呼吸検査」は、装置をつけて寝るだけなので、病院で行う必要はなく検査前後の快適さを考えるとホテルや旅館でくつろいだ状態で検査を受けることは利用者にとっても少しでも負担が減少することになる。



## 2. 湖西 ー湖西の宿泊とスキースポーツー

滋賀県湖西の代表的スキー場である、琵琶湖バレイの概要の確認から、宿泊地、温泉地とスキーの結びつけ、さらにはその課題とその解決策を探ってみたい。

### (1) 代表的スキー場である琵琶湖バレイの概要

滋賀の代表的スキー場であり箱館山とならぶ琵琶湖バレイは、琵琶湖西岸にそびえる比良山系の打見山（うちみやま）（1103m）・蓬萊山（ほうらいさん）（1174.3m）に広がる、関西有数の規模を誇るスキー場である。山麓駅（さんろくえき）からアルプスゴンドラで打見山（う



ちみやま）山頂に着くと眼下に琵琶湖が広がり、9つの滑走コースを持つ変化に富むゲレンデでは、雄大な景色を眺めながら12月上旬から3月下旬まで豪快なスキーが楽しめる。また、スキー、スノーボードのスクールも充実している。春の訪れとともにスイセン、シャクナゲ、ツツジと夏まで花が咲き誇り、登山者やハイカーの目を楽しませる。また、フィールドアスレチックや大滑り台など遊戯施設やスポーツ施設が整備されていて、一年中楽しめるレジャーゾーンとして定評がある。

アクセスはJR湖西線、志賀駅下車バス10分で琵琶湖バレイ山ろくに到着する。京都から1時間以内のアクセスで典型的な都会型スキー場である。

宿泊施設は頂上に日帰り入浴も可能な山荘30室、近隣近江舞子に25室程度の家族向けリゾート温泉がある。天然雪と人口降雪併用で雪不足はない。

### (2) スキー場の課題

全国的にもスキー人口は年々減少しており、市場規模は平成15年で前年比3.3%減の890億円であった。琵琶湖バレイも例外ではない。平成17年度の利用者数は、30万2400人であり、前年より6700人減少した。レジャーの多様化に加え、不景気、給与の相対的減少から宿泊を伴いやすく、単価が高くなるスキーが敬遠されてきた。

京阪神に近く、比較の日帰り客の多い琵琶湖バレイはその利便性、アクセスのよさで近畿の他のスキー場と差別化してきた。スキー経営は売上のうちリフトが約55%、宿泊15%、売店15%、食堂10%となっており、都会リゾート型の琵琶湖バレイにとって宿泊で収入を得るより、日帰りも含めリフトで収入を得ることが短期的には売上向上につながる。いかに利用者呼び込むかであるが、30年から20年前にスキーを愛好した若者が、子供を抱えた父親、母親になっており、それらかつての愛好家をいかに呼び寄せられるかが課題といえる。

そのヒントとして、北海道では『ゲレンデコンシェルジュ』を配置し、新しい顧客の開拓、サービス向上で好評を呼んでいる。コンシェルジュとはゲレンデにいるスキーヤーや宿泊客に

食事や飲み物を届けたり、スキー宅配便の受け取り、発送、道具の保守、パトロール等を受け持つ、俗にいう便利屋さんである。このようなサービス向上が、他のスキー場との差別化となる。また近隣スキー場、例えば箱館山スキー場との連携、宿泊施設の共有化も大きな課題である。

### (3) 温泉、宿泊の現状

地域の温泉としては、雄琴温泉が滋賀県を代表する温泉郷として重要である。現在、雄琴温泉としても、泉源の開発、施設の設備投資、サービス、プロモーションなどに取り組んでいる。しかし、温泉郷全体としては、夜間の散策、びわこまでの散策路、展望施設や足湯など公共の交流スペースの開発などは課題があると考えられる。

### (4) 課題と解決策

スキー代、宿泊代などをリーズナブルに設定し、地域の雄琴温泉や周囲の宿泊施設との融合による食事、温泉の提供で、顧客の大満足を得ることができると考える。

また学校教育の一環として、1泊2日のスキー修学旅行も、学校行政に働きかけ、集客増加、さらには将来の顧客として戦略的にさらに強化すると効果的である。

民間スポーツ施設と温泉街の街づくりと融合施策を、公民が一体となって、推進していくことがポイントと考える。

### 3. 湖東

観光客の動態、分析結果の考察から湖東地域エリアでのスポーツ・レクリエーションと温泉資源の融合、そして観光産業の活性化について分析した結果をもとに地域考察し、課題数点について当地区への提言をまとめる。

ここで湖東地域エリアとは東近江市を含めて彦根市を北限に能登川、近江八幡、八日市に至る地域を対象としている。

#### (1) 宿泊に結びつかない日帰り客が圧倒的に多いこと

これは全県各地域に言える課題である。特に広大な面積を持つ当地域において、宿泊提供施設およびその特徴の観点での課題が挙げられる。湖東、東近江地域は多くの古寺名刹が存在し、近江商人発祥の地、中山道を歩く歴史探訪など観光資源の豊かさにより観光客は絶えないが、日帰り観光に終わってしまうきらいがある。ゆったり観光には宿泊してもらうことをベースとした観光施策が必要とされる。県内温泉旅館地域との協力、J R琵琶湖一周環状線による温泉めぐり、県下広域的な観光資源と施設の連携、全県パンフレット、県外観光客の滞在特典ポイントによるリピート顧客おもてなし等に全県挙げて参画する行動を観光産業活性化として提言するものである。

#### (2) 湖東に於ける観光客入り数が5年間に増加傾向にない

東近江地域における観光客入り数はこの5年間大きい伸びが報告されているが、湖東地域で増加傾向でないことに課題も散見される。東近江地域では近江八幡水郷風情計画の整備による八幡堀めぐりが近江商人の町並みと共に多くの観光客を呼び、日野町テーマパークである農業公園「ブルーメの丘」も異彩を放っている。体験、ふれあい、遊び、見る等多くの満足要素がこの効果を発揮していると考えられる。鉄道からのバス便、交通アクセス、宿泊施設の地域利便性はあるが、さらに遠隔地、他県からの観光客誘致には、県内観光宿泊施設との連携、県下広域的な観光ルート、特に県内の温泉施設との連携強化で健康と観光を宿泊客に結びつける誘致提言である。

湖東地域においては彦根市を中心に、築城400年となる国宝の彦根城、玄宮園庭園およびキャスルロード整備がなされ、四季折々の風情が堪能できる。ここではウォーキングに加えサイクリングも選択が出来るようにすることにより、より幅広い観光客層のスポーツ感覚による満足が得られると考える。健康と観光の融合を図るために、この地域においても本県内の有数温泉施設との連携で観光客の来県期待を高める活動を提案するものである。

### (3) 四季を通じた観光客入り数増加への施策、特に温泉資源活用への冬場増強施策

湖東、東近江地域は美しい湖岸、清流にも恵まれて、また湖東三山の名刹、西明寺、金剛輪寺、百濟寺、もみじで名高い永源寺、伊勢神宮ご縁の延命長寿と縁結びの多賀大社など古社寺の宝庫といえる地域である。しかしながら冬季での気候風土も影響し一般観光客には落ち着いて終日観光できる魅力には課題視される部分である。提言の中にまとめる滋賀の温泉活用による四季を通じた観光に対してその連携が待たれるところである。この地域には国民宿舎かもしか温泉、休暇村近江八幡の宮ヶ浜湯、近江温泉などが、温泉宿泊施設として存在する。他地域、特に雄琴、石山の犬津・志賀地域、長浜を含む湖北地域に存在する温泉宿泊施設との連携、割引宿泊契約、移動アクセス援助など県下地区広域的な協力により、観光客が帰路を心配することなく、より一層健康と観光を満足できる場の提供として提言するものである。

### (4) 目的別でのスポーツ、レクリエーションに関わる高齢者、若年層観光客の誘致施策

湖東、東近江地域は美しい湖岸、広大な平野地を抱え、有名社寺も多いがその移動、アクセスにおいてスポーツ感覚を入れた対応の余地が考えられる。大阪の「食いだおれ」、京の「着だおれ」に対応して、滋賀の「遊びだおれ」をコンセプトに、観光客誘致施策へ働きかける。

移動に対しては既に近江鉄道各駅、JR主要駅からのバス便、シャトルバス等が整備されているが、東近江地域での鉄道駅からはウォーキングコース、サイクルコースが整備されている。他のJR主要各駅からも、レンタサイクル、サイクルロード整備による高齢者、若年層を含めたスポーツ感覚の遊び鍛える行動の導入、それらの場の提供、そして温泉宿泊での疲れ癒しを満足できる行動提供を提言するものである。

#### 4. 湖北

湖北地域でのあそび、スポーツ体験と温泉資源の融合提案に当たって、まず湖北地域で2つの観光エリアを抽出し、また地域の温泉資源を調査・分析したうえで提案を行うこととする。

##### (1) 伊吹山

伊吹山は岐阜県との県境にある滋賀県の最高峰（標高 1,377m）

で、深田久弥著書『日本百名山』にも選ばれた名峰である。山頂から眼下に長浜市街や琵琶湖はもちろんのこと、比良、比叡の山々、晴れた日には日本海や伊勢湾、日本アルプスや立山連峰まで見ることができ、一大パノラマが広がっている。古くは、「古事記」や「日本書紀」にその名が記されており、



2006年12月31日撮影

日本武尊（ヤマトタケル）が山の荒

神の化身である白猪に会い、傷を負わされてふもとの清水でなおしたという伝説にも登場する歴史的な山である（山頂には日本武尊の像が立っている）。また、日本のほぼ中央に位置することから北方系の植物や日本海側に分布する植物も生息する他、好石灰植物や独自に進化した特産種も存在するなど 1,200 種類とも言われる高山植物、野鳥や昆虫の宝庫としても有名である。また、日本でも有数の豪雪地域で、昭和 42 年 2 月 14 日の最深積雪 1,182m はギネスブックにも登場するほどである。

交通アクセスは、J R 東海道本線近江長岡駅からバスで 15 分、車では名神関ヶ原 I C または北陸自動車道長浜 I C からそれぞれ 20 分程度である。また、伊吹山登山口からは 3 合目まで全長 1,442m、6 人乗りのゴンドラが運行されており、約 8 分で 3 合目まで着くことができる。さらに、岐阜県関ヶ原町から山頂まで全長 17km の「伊吹山ドライブウェイ」が開通（冬季期間中は閉鎖）しており、頂上付近まで車で行くことも可能、夏場には J R 東海道線大垣駅または関ヶ原駅から定期登山バスも運行されている。

春から秋にかけては、登山やハイキング、パラグライダーやマウンテンバイクなども楽しむことができる。また、冬にはスキー場（ピステジャポン伊吹）がオープン、初級者から中・上級者まで楽しめる 5 つのコースがあり、人工降雪機能もある。さらに 3 合目に「展望の湯」が開設されており、自然の恵みを詰め込んだ薬草風呂などでゆっくりくつろぐこともできる。

## (2) 余呉湖周辺

三方を賤ヶ岳、大岩山、行市山に囲まれた周囲 6.4km、面積 1.8 平方 km、水深 13m の小さな湖で、波一つない湖面に周囲の山々を映し出すことから別名「鏡湖」とも呼ばれている。

この湖は古くから、はかなくも美しい天女の羽衣伝説や龍神・菊石姫の伝説が残る神秘の湖で、水上勉の小説「湖の琴」の舞台にもなっている。



余呉湖全景（1982年撮影滋賀県広報課 HP より引用）

自然が多く、四季を通じて美しいことから、サイクリングやハイキングを楽しむには最高のスポットといえよう。また、冬には「わかさぎ釣り」が楽しめ、同町内には余呉高原スキー場、ベルク余呉スキー場の他、ファミリーが楽しめる赤子山スキー場もあり、車で 30 分圏内の距離である。

### ① 余呉湖キャンプ場（7月1日～8月31日）

- ・バンガロー（3～4人用：15棟）、  
オープンスペース（テント40張）
- ・プール
- ・テニスコート（2面）
- ・その他（バーベキューガーデン、共同炊事場、更衣室、駐車場、売店、釣り場など）



### ② 国民宿舎余呉湖荘

- ・国民宿舎だから1泊2食で6,615円からと大変リーズナブルな価格となっている。

## (3) 湖北地域の温泉資源

### ① 長浜太閤温泉

豊臣秀吉が最初に城を構えた長浜城跡地一帯の豊公園内に湧出する温泉地で、秀吉に初めて子供が誕生したことにちなんで名づけられ、“子宝の湯”とも呼ばれている。泉質は茶褐色で湯冷めしにくい含鉄泉、泉温は 20℃前後、冷え性、リウマチ、皮膚病、神経痛、婦人病等に効果があると言われている。この温泉は、国民宿舎、ホテル、旅館各1カ所の3軒が引湯、いずれも目の前に広がる琵琶湖の美しい景色を一望できる宿泊施設となっている。また、

周辺には「長浜城歴史博物館」の他、「黒壁スクエア」や「曳山博物館」等の観光施設もあり、旅の気分も十分味わえる温泉地と言えよう。

#### ② 須賀谷温泉

小谷城跡に近い山里に建つ一軒宿の温泉で、戦国時代には浅井長政をはじめ、お市の方や茶々（のちの淀君）も湯治に訪れたといわれている秘湯である。泉質は赤褐色のヒドロ炭酸鉄泉で、泉温は 18.3℃、神経痛や筋肉痛、肩こり、冷え性、胃腸病等に効能があるといわれている。この温泉の周辺は国宝十一面観音像で知られる渡岸寺観音堂（向源寺）をはじめとする観音像が多数所蔵され、己高山の山岳仏教文化の中心地として栄えた地域である。

#### ③ 尾上温泉

びわ湖畔に建つ一軒宿の温泉で、戦国時代には賤ヶ岳の合戦の敗残兵が傷を癒した等の言い伝えもある。泉質はナトリウム・炭酸水素塩泉で、泉温は 21.1℃、神経痛や婦人病、リウマチ、脳卒中の回復期、骨折や外傷後の療養・病後の回復等に効能があるといわれている。この温泉宿は琵琶湖の湖畔に建っていることから、どの部屋からも手の届くほどの近さに琵琶湖があり、それに映える竹生島の佳景が満喫できる。また、近隣に湖北野鳥センターがあり、10月から翌年3月にかけて飛来した多くの野鳥が観察できる。

#### ④ 北近江の湯

温泉とグルメが楽しめる大型スパ施設で、地下 1,500mから湧出する日帰り温泉である。泉質はナトリウム塩化物泉（低張性弱アルカリ性温泉）で、泉温は 36.0℃、神経痛や筋肉痛、五十肩、冷え性、慢性婦人病、疲労回復等に効能があるといわれている。この温泉は国道 8 号線沿い立地していることから、車を利用しての観光地へのアクセスは良い。

### (4) 温泉・宿泊施設との融合提案

上記 2 つの観光地の周辺にはキャンプ場や民宿等が見受けられるものの、その数は決して多くない。また、ホテルや温泉といった「癒し」を満足させる施設や「食」を満足させるレストランもなく、さらに大きな土産物店やドライブインといった「購買」を満足させる商店も少ない。つまり、その地域だけでできる遊びやスポーツをのみに限定され、観光についても車での移動が必要なことから、観光客の幅広いニーズに応えることは難しいと言わざるを得ない。

一方、上記 4 つの温泉資源の周辺には「遊び」や「スポーツ」を満足させる施設は少なく、唯一長浜太閤温泉のみが市街地に近いことから「購買」や「遊び」を満足させる商店や施設が多いことがわかる。ただし、周辺にテニスコートやヨットハーバー等はあるものの市民が利用するために作られた施設であることから、観光客が利用するには難しい環境にあるものと考えられる。

つまり、これらの観光地や温泉資源を訪れる観光客は、その施設のある地域のみで観光を終

えてしまうか、そこでできる目的のみに限定した観光客しか訪れないようになっているものと思われる。

観光客の幅広いニーズに応えるためには全てのニーズにマッチした施設を作ることが早道であるが、現状の観光客数だけでは採算面でも問題があり、新たに開業する事業者も少ないものとする。そこで、現有の施設で観光客のニーズを高めるためには、それぞれの施設が強みを生かし、弱みは他の施設と協力してカバーしていくことが最善の策となろう。そのために、次のような提案を行いたい。

#### ① 温泉施設と観光地の連携強化

温泉施設を利用した観光客に観光地までの移動をしやすいするために、道路マップの作成や公共交通機関を利用した移動方法の案内をよりわかりやすいものにする。また、各施設同士で連携してそれぞれの施設までの送迎等を行う。

#### ② 観光施設同士の連携強化

それぞれの観光地のみをアピールするのではなく、それ以外の観光施設を紹介し会うことで滞在時間の延長を図る。また、観光施設同士でポイントカードのようなものを作るとか、スタンプラリーのようにいくつかの施設を訪問することを視覚で訴えさせることも得策と考える。

#### ③ 宿泊施設同士の連携強化

それぞれの宿泊を利用した観光客には、次回の訪問時に近隣の宿泊施設でも利用可能な「割引券」等を交付し、地域全体でリピート化を促進する。これによりそれぞれの宿泊施設が切磋琢磨し、より満足度を高めるようになることも期待できる。

#### ④ 宿泊施設とスポーツ施設や体験施設との連携

宿泊者に観光地を紹介し回らせるだけでは滞在時間は決して長くならず、リピーターとなる可能性も低いものと考えられることから、宿泊施設が各種スポーツ施設や体験施設と連携していくことが必要と考える。例えば、複数のスキー場と連携し毎日違う滑走コースで満喫させるとか、テニスコートや体育館の利用を促し違うスポーツを楽しませたり、そば打ち道場や陶芸教室等と連携していろんな体験をさせるといったことが有効と思われる。



#### ⑤ 滋賀県のHP等による観光案内の見直し提案

現在滋賀県のホームページ上では「滋賀を歩こう」や「しがサイクリングマップ」が掲載され、地域毎にいくつかのコースが設定されている。ただし、これは各自治体の観光を平等に紹介すること第一に考えられているものと思われ、読者にはどのコースが時期的に最も適しているのか、また複数のコースを回るにはどれとどれを選べばよいのかわかりにくいものと思われる。よって、各コースを単に掲載するだけでなく、季節毎に最も適したコースを特別に紹介したり、コースをつなげたりといった工夫が必要と考える。また、各コースの終点はいずれもJRの駅となっているが、宿泊を伴ったコース設定や宿泊施設の紹介なども付け加えるべきと考える。例えば、湖北地域では6つのウォーキングコースと14のサイクリングコースが紹介されているが、これらのコースをスタンプカードのようなものにまとめ、コースを完走するたびにスタンプを押すなどして集める楽しみを付加し、滞在時間の延長やリピートを促すことも有効と考える。

さらに、ホームページでは「観る」、「遊ぶ」、「泊まる」等のスポット毎に調べやすく出来ているが、スポットごとのリンクはなく個別に調べるしかない。HPで調べる観光客は、地域をあまり知らない者が多いものと思われることから、この「遊ぶ」スポットには近隣にどのような「観る」施設や「泊まる」施設があるのか、またどれくらいの時間で行けるのかといったことが即座にわかるようにすべきと考える。

## お わ り に

滋賀県は琵琶湖や周辺の山々の自然をはじめ、名所旧跡、神社・仏閣など歴史的文化遺産など観光資源に恵まれた県であり、それらの観光資源は多くの観光客に期待され喜ばれ、年間4300万人を越える延観光客入り数を数える観光立県の要素になっている。その中であって観光客の動態からみると日帰り客が圧倒的に多いという実態がある。

今回の中小企業診断士会員調査・研究事業メンバーは滋賀県の観光産業の活性化には宿泊客の増加への施策が必要ではないかとの意見の合意から、宿泊のための条件を探ってみることになった。滋賀県のイメージ、宿泊の目的を調べ、宿泊施設の状況、宿泊条件の特徴などを考察する段階で、温泉資源を活用するが宿泊客増加に繋がるのではないかの考えに至った。

分析データをもとにしたSWOT分析から滋賀県の強み、弱みを考察すると、豊富な山、湖、川、里の自然、大阪、京都近隣での良好なアクセス等の強み、温泉資源の活用、宿泊させる力が弱いなど多く課題が挙げられ、それらへの展開策を研究し、機会と脅威の分析から提言活動へと進めて行った。

私たちは、大阪の「食いだおれ」、京の「着だおれ」にあやかっ、滋賀（近江）の「遊びだおれ」をコンセプトとして設定した。豊かな自然を活用するスポーツ、レクリエーションの場を老若男女に提供し、手軽な運動の場からマニア指向スポーツまで、滋賀で遊んで、滋賀の温泉で身体を癒し、そして宿泊してもらい、健康と観光を兼ねた施策への展開をまとめた。

現在も地域エリアごとに観光事業は大変活発である。琵琶湖周回 JR 線も整備され、湖周道路の整備と共に各地のアクセスは一層便利になった事を利用して、更に全県一丸となった観光施策に向けての提言としてまとめることが出来た。

これらの提言結果は部分的、断片的な分析もあるが観光資源、とりわけ滋賀の温泉活用による観光施策の序章としては有用な研究成果になったものとする。県および市町村観光行政当局、観光事業者各位での今後の参考になることを願っている。

調査、分析に際して滋賀県商工観光労働部商工観光政策課の調査報告書並びに鉄道各社の観光情報資料を分析の一次資料として参照させて頂いた。

終わりに当たり調査・研究への情報を頂いた社団法人びわこビジターズビューロー、滋賀県旅館生活衛生同業組合、中小企業診断協会関係支部、商工会関係各位に謝辞を申し述べ、ここにまとめと致します。

平成19年1月

社団法人中小企業診断協会滋賀県支部  
マスターセンター補助調査・研究事業委員会

## 参考資料

### 1. 滋賀県における観光資源の情報を提供している主な団体

◇ 滋賀県観光情報

<http://www.biwako-visitors.jp/>

運営：社団法人 びわこビジターズビューロー

コメント：滋賀県の観光資源の紹介、イベント情報、写真コンテストなど県内情報が満載

◇ びわこスポーツ NOW

<http://www.biwakosportsnow.or.jp/index.asp>

運営：滋賀県広域スポーツセンター

コメント：スポーツ施設の紹介、地域のスポーツクラブの紹介などの情報満載

◇ 琵琶湖カヌーセンター

<http://www.faltpia.co.jp/bcc/index.htm>

運営：株式会社ファルトピア

コメント：カヌー体験や野外体験、カヌー販売など

◇ 滋賀県立琵琶湖漕艇場

<http://www1.biwakosportsnow.or.jp/prefboat/>

運営：滋賀県

コメント：ボート競技の開催や親子ボート体験教室の開催など

◇ しがサイクリングマップ

<http://info.biwako-visitors.jp/cycling/>

コメント：県内各地のサイクリングマップの提供など

◇ 滋賀ガイド サイクリング特集

<http://www.gaido.jp/machikado/2006cy/>

運営：株式会社ヤマプラ

コメント：滋賀県内の地域ガイドが満載。レンタサイクルの紹介など

◇ B S C ウォータースポーツセンター

<http://www.bsc-int.co.jp/accommodation.html>

運営：株式会社ビーエスシー・インターナショナル

コメント：びわ湖での自然体験、トレッキング、ウォータースポーツ教育など

◇ エコロシーが

<http://www.ecoloshiga.jp/>

運営：滋賀県環境学習支援センター

コメント：環境学習の企画やプログラムづくりをするときに役立つ情報を満載

## 2. 滋賀県内の主な観光資源

### 滋賀県内の主な温泉

温泉名	住所	泉質	特長・効能等
雄琴温泉郷	大津市	アルカリ性単純温泉	湖国随一の温泉街、最澄が開いたと伝わる古湯【神経痛・筋肉痛・関節痛・美肌効果等】
石山温泉郷	大津市	単純放射能泉	瀬田川畔の温泉郷、紫式部が源氏物語の構想を練った地と伝わる【肩こり・筋肉痛等】
びわこ温泉	大津市	アルカリ性単純温泉	琵琶湖を眼前に望む露天風呂【運動機能障害・神経痛・リウマチ・関節痛等】
古琵琶湖温泉	大津市	低張性弱アルカリ性低温泉	いわゆる健康ランド【神経痛、筋肉痛、関節痛等】
南郷温泉	大津市	単純放射能泉	瀬田川畔の南郷洗堰にある湯処【リウマチ・神経痛・高血圧・動脈硬化等】
瑠璃温泉	大津市	単純温泉	昭和初期に創業した老舗ホテルが持つ独自温泉【神経痛、美肌効果、疲労回復等】
天然温泉 比良とびあ	大津市	低張性弱アルカリ性低温泉	【神経痛、筋肉痛、冷え性等】
みずほの湯	守山市		寝湯や薬草風呂も楽しめる源泉使用のスーパー銭湯
十二房温泉	湖南市	単純弱放射能低温泉	平成6年に湧出し、11年春に開館した温泉【神経痛、筋肉痛、関節痛、慢性消化器病等】
宮乃温泉	甲賀市	含塩化土類食塩泉	山深い甲賀の里に佇む一軒宿の秘湯【リウマチ、神経痛、胃腸病、皮膚病等】
塩野温泉	甲賀市	天然鈹冷泉	弘法大師が発見したと伝わる塩類泉【神経痛、婦人病、胃腸病等】
近江温泉	東近江市	アルカリ性単純温泉	滋賀県ではめずらしい天然湧き出し温泉【神経痛、筋肉痛、関節痛、運動麻痺等】
かもしか温泉	甲賀市	炭酸水素塩冷鈹泉	鈴鹿山麓に建つ国民宿舎の温泉【美肌効果、神経痛、痛風等】
信楽温泉 多羅尾の湯	甲賀市	低張性弱アルカリ性低温泉	海拔600m付近の高原にあるゴルフ場内の温泉【神経痛、筋肉痛、関節痛等】
信楽ためき温泉	甲賀市	炭酸水素塩泉	日本六古窯のひとつで名高い信楽に湧出する温泉
宮ヶ浜の湯	近江八幡市	低張性弱アルカリ性低温泉	琵琶湖畔に建つ休暇村の温泉【神経痛、筋肉痛、関節痛、運動麻痺等】
彦根千乃松原温泉	彦根市	低張性弱アルカリ性低温泉	眼前に松原水泳場が広がるかんぼの宿がもつ独自温泉【神経痛、冷え性、関節痛等】
長浜太閤温泉	長浜市	含鉄泉	秀吉が構えた長浜城跡地一帯の豊公園内に湧出する温泉【冷え性、リウマチ、皮膚病等】
須賀谷温泉	長浜市	ヒドロ炭酸鉄泉	戦国武士が傷を癒すのに浸かったと言われる秘湯【神経痛、筋肉痛、肩こり、冷え性等】
尾上温泉	湖北町	ナトリウム炭酸水素塩泉	琵琶湖畔に建ち竹生島を正面に臨む温泉【神経痛、婦人病、リウマチ等】
北近江の湯	高月町	ナトリウム塩化物泉	地下1500mから湧出する日帰り温泉【神経痛、筋肉痛、五十肩等】

マキノ白谷温泉	高島市	単純弱放射能冷鉱泉	マキノスキー場の北側に湧く温泉 【神経痛、筋肉痛、関節痛等】
マキノ高原温泉	高島市	アルカリ性単純温泉	マキノ高原にの一角にある温泉 【神経痛、筋肉痛、慢性消化器病等】
宝船温泉	高島市	ヒドロ炭酸泉	近江白浜水泳場の近くに建つ一軒宿の温泉 【婦人病、皮膚病、疲労回復等】
くつき温泉	高島市		「グリーンパーク思い出の森」内にある温泉 【神経痛、五十肩、疲労回復等】

## 大津・志賀エリアの見どころ

見どころ	住所	特長・歴史等
柳が崎湖畔公園	大津市 柳が崎	旧琵琶湖ホテルとして知られるびわこ大津館を中心に、英国式回遊庭園が広がる湖畔の公園。JR西大津駅から徒歩18分。
大津湖畔 なぎさ公園	大津市 島の関	大津港周辺の島の関から晴嵐までの湖岸沿いに続く散策公園。びわこ花噴水、なぎさのプロムナードなど6つのゾーンからなる。
大津港	大津市 浜大津	外輪船「ミシガン」による湖上クルージングの他、ピアンカによる琵琶湖縦断クルーズ、ナイトクルーズ等がある。
滋賀県立 琵琶湖文化館	大津市 打出浜	滋賀の国宝、重要文化財を含む貴重な仏教美術を多数収蔵。京阪島ノ関駅から徒歩5分。
木下美術館	大津市 茶が崎	木下弥三郎氏のコレクションを公開する私設美術館。横山大観らの日本画をはじめ、洋画など多数展示。
膳所城跡公園	大津市 本丸	慶長6(1601)年徳川家康が大津城を移築し築いた膳所城跡。本丸跡が公園として整備され、桜の名所として有名。
蘆花浅水荘 (記恩寺)	大津市 中庄	日本画家山元春举の別荘跡。数寄屋造りの建物と琵琶湖・近江富士を借景した庭園がある。
比叡山延暦寺	大津市 坂本本町	滋賀唯一の世界遺産、伝教大師最澄が開いた天台宗の総本山。東塔、西塔、横川の3エリアに分かれドライブウェイでつながっている。
三井寺(園城寺)	大津市 園城寺町	近江八景の一つ「三井の晩鐘」で名高い梵鐘や境内には国宝の金堂をはじめ重要文化財が並ぶ。京阪三井寺駅から徒歩10分。
大津絵美術館	大津市 園城寺町	円満院内にある大津絵に関する文献を展示している美術館。京阪三井寺駅から徒歩10分。
大津市歴史 博物館	大津市 御陵町	旧大津の縮小模型や100インチのビデオシアター等で大津の歴史と文化を紹介。京阪別所駅より徒歩5分。
近江神宮	大津市 神宮町	大津京を造営した天智天皇を祀る神社で、時計博物館もある。京阪近江神宮前駅から徒歩5分。
石山寺	大津市 石山寺	天宝字5(761)年に東大寺の僧良弁が開基したと伝わる寺で、紫式部が籠って「源氏物語」を執筆したことで名高い。
岩間寺(正法寺)	大津市 石山内畑町	西国三十三ヵ所第12番札所で、本尊の観音像は「汗かき観音」「雷除け観音」とも呼ばれ厚い信仰を集めている。
義仲寺	大津市 馬場	室町時代末期に粟津合戦で敗死した木曾義仲を供養するために建立、江戸末期には松尾芭蕉が湖南門下を指導したと伝わる寺。
大津祭 曳山展示館	大津市 中央	湖国三大祭の一つ大津祭の資料や原寸大曳山のレプリカを展示。JR大津駅から徒歩10分。
三橋節子美術館	大津市 小関町	日本画家三橋節子の作品を収蔵、展示。京阪上栄町駅から徒歩10分。

<b>立木観音 (安養寺)</b>	大津市 南郷	平安初期に弘法大師が一本の立木から彫ったという等身大の観音像を祀る。JR石山駅からバスで20分、徒歩20分。
<b>滋賀県立 近代美術館</b>	大津市 瀬田南	近代日本画、滋賀県ゆかりの美術、現代美術の3つのジャンルからなる美術館。JR瀬田駅からバスで10分、徒歩5分。
<b>小野神社</b>	大津市 小野	遣隋使で有名な小野妹子が創建したと伝わる神社。また妹子の墓と伝わる唐臼山古墳が隣接する。JR和邇駅から徒歩10分。
<b>日吉大社</b>	大津市 坂本本町	全国にある日吉神社の総本宮。ほとんどの建造物が国宝等の文化財に指定され、古事記にも記される古社。京阪坂本駅から徒歩10分。
<b>西教寺</b>	大津市 坂本	天台真盛宗の総本山で、明智光秀の墓や客殿には狩野派の襖絵等がある。京阪坂本駅から徒歩20分。
<b>滋賀院門跡</b>	大津市 坂本	穴太衆積みの石垣に囲まれた延暦寺門跡寺院。JR比叡山坂本駅から徒歩10分。
<b>唐崎神社</b>	大津市 唐崎	近江八景の「唐崎の夜雨」で名高い黒松が境内に立つ古社。JR唐崎駅から徒歩10分。
<b>浮御堂</b>	大津市 本堅田	臨済宗大徳寺派の寺で、近江八景の一つ「堅田の落雁」として知られている。JR堅田駅からバス5分、徒歩5分。
<b>湖族の郷資料館</b>	大津市 本堅田	中世に琵琶湖の水運や漁業などの権利を握り繁栄した堅田湖族の資料を展示。JR堅田駅からバスで5分、徒歩5分。
<b>天然図画亭</b>	大津市 本堅田	堅田湖族の一人、居初氏屋敷の旧邸。JR堅田駅からバス3分、徒歩5分。
<b>水のめぐみ館 アクア琵琶</b>	大津市 黒津	琵琶湖と淀川水系について展示品や映像などで紹介するテーマ館。JR石山駅からバスで20分、徒歩5分。
<b>びわ湖パレイ</b>	大津市 木戸	打見山山頂のレジューエリアで冬季はスキー場 JR志賀駅からバスで15分、アルプスゴンドラで8分。
<b>比良げんき村</b>	大津市 北小松	キャンプやハイキング、アスレチックなどができる野外施設で、プラネタリウムもある。JR北小松駅から徒歩15分。

## 湖南エリアの見どころ

見どころ	住所	特長・歴史等
<b>草津宿本陣</b>	草津市 草津	東海道筋で唯一完全な姿を残す本陣跡で全国的にも最大規模を誇る。JR草津駅から徒歩10分。
<b>草津宿 街道交流館</b>	草津市 草津	東海道と中山道の分岐点として栄えた草津宿の資料を展示する資料館。JR草津駅から徒歩15分。
<b>立木神社</b>	草津市 草津	境内に延宝8(1680)年建立の銘がある石造りの旧追分道標が立つ。JR草津駅から徒歩10分。
<b>芦浦観音寺</b>	草津市 芦浦町	石垣と堀で囲まれた城郭のような外観を持った古刹。JR草津駅からバスで15分。
<b>矢橋帰帆島公園</b>	草津市 矢橋町	近江八景「矢橋の帰帆」で知られる矢橋港跡に作られた人工島。公園内には散策庭園のほか、テニスコート・野外プール等がある。
<b>烏丸記念公園</b>	草津市 下物町	烏丸半島の入り口にある公園。アーチモニュメントを中心にユニークな石の彫刻が並んでいる。JR草津駅からバスで20分
<b>水生植物公園 みずの森</b>	草津市 下物町	ハスの群生地である烏丸半島にある自然公園。7月下旬～8月上旬にかけ様々なハスが湖面を覆う。
<b>滋賀県立 琵琶湖博物館</b>	草津市 下物町	琵琶湖の水中を再現したトンネル水槽や再現されたアケボノゾウ等を展示、湖底遺跡や湖の生物・環境なども学ぶことができる。
<b>中仙道守山宿 郷土人形館</b>	守山市 守山	中山道守山宿の歴史と文化を紹介している資料館で、世界の著名人によって作られた人形も展示。JR守山駅から徒歩5分。

近江妙蓮公園	守山市 中町	滋賀の天然記念物近江妙蓮という珍しいハスが見られる公園。 J R 守山駅からバスで 15 分。
佐川美術館	守山市 水保町	日本画家平山郁夫と現代彫刻家佐藤忠良の作品を展示する美術館。 J R 守山駅からバスで 25 分。
第一なぎさ公園	守山市 今浜町	1 月下旬～3 月にかけて早咲きの菜の花、7 月中旬～8 月中旬にはヒマワリが咲き乱れる公園。J R 守山駅からバスで 30 分。
希望が丘 文化公園	野洲市 北桜	文化、野外活動、スポーツからなる子どもも大人も楽しめる公園 J R 野洲駅からバスで 10 分。
大笹原神社	野洲市 大篠原	水の神として信仰を集める古社。 J R 野洲駅からバスで 13 分、徒歩 10 分。
御上神社	野洲市 三上	三上山西麓に建つ古社。 J R 野洲駅からバスで 10 分。
銅鐸博物館・弥生の森歴史公園	野洲市 辻町	大岩山から出土した銅鐸を展示、野洲に関する歴史、民俗等も紹介。 J R 野洲駅からバスで 10 分。
近江富士 花緑公園	野洲市 三上	三上山山麓に広がる公園で、植物園のほか草木染め体験ができる施設もある。J R 野洲駅からバスで 15 分。
兵主大社	野洲市 五条	養老 2 (718) 年創建と伝えられ、一面の苔が美しい平安末期の池泉回遊式庭園は国指定の名勝。近江鉄道兵主大社駅から徒歩 3 分。
鮎家の里	野洲市 吉川	鮎や湖魚の佃煮を販売するグルメパーク。 J R 野洲駅からバスで 20 分。
栗東歴史民俗博物館	栗東市 小野	美術工芸や考古・民俗資料で栗東の歴史や文化が学べる資料館。 J R 草津駅からバスで 15 分。

## 甲賀エリアの見どころ

見どころ	住所	特長・歴史等
やきものの里 信楽	甲賀市 信楽町	天平 14 (742) 年聖武天皇が紫香樂宮を造営した際に瓦等を焼いたことに始まる。数多くの窯元や陶器ショップ、陶芸教室等もある。
陶芸の森	甲賀市 信楽町	信楽焼をテーマにした緑あふれる文化公園。 信楽高原鉄道信楽駅から徒歩 20 分。
信楽陶芸村	甲賀市 信楽町	明治 21 (1888) 年造営の窯元を一般公開。全長 25m の巨大な登り窯がある。
陶芸丸克 センター	甲賀市 信楽町	信楽焼作品の展示販売と陶芸教室。 信楽高原鉄道信楽高原駅から徒歩 15 分。
信楽陶苑 たぬき村	甲賀市 信楽町	器やタヌキの置物など多彩な信楽焼を販売。食事処と体験陶芸教室を併設。
信楽古陶館	甲賀市 信楽町	室町時代から昭和初期までの信楽焼を展示。 信楽高原鉄道信楽駅から徒歩 15 分。
宗陶苑	甲賀市 信楽町	200 年以上の伝統を持つ信楽焼の窯元。 本格的な昨陶や絵付け体験ができる。
甲賀市信楽 伝統産業会館	甲賀市 信楽町	信楽焼の作品の数々や関連資料を展示。 信楽高原鉄道信楽駅から徒歩 8 分。
史跡紫香樂宮跡	甲賀市 信楽町	天平 14 (742) 年に建立された聖武天皇の離宮跡。 信楽高原鉄道信紫香樂宮跡駅から徒歩 7 分。
MIHO MUSEUM	甲賀市 信楽町	緑豊かな山間に建つ世界の美術を展示した美術館。 J R 石山駅からバスで 50 分。
玉桂寺	甲賀市 信楽町	奈良時代、淳仁天皇の離宮跡に空海が創建した真言宗の寺。 信楽高原鉄道玉桂寺前駅から徒歩 5 分。

飯道神社	甲賀市 信楽町	飯道山の頂上付近に建つ古社。 信楽高原鉄道信紫香楽宮跡駅から車で10分。
甲賀流忍者屋敷	甲賀市 甲南町	甲賀武士五十三家の筆頭格、望月出雲守の旧宅で現存する本物の忍者屋敷。JR甲南駅から徒歩20分。
甲賀の里 忍術村	甲賀市 甲賀町	甲賀忍術博物館を中心に、からくり屋敷や水ぐも池、手裏剣道場等がある。JR甲賀駅から車で10分。
油日神社	甲賀市 甲賀町	油日岳のふもとにある甲賀の総社で、油の火の神として信仰を集めている。JR油日駅から徒歩25分。
櫟野寺	甲賀市 甲賀町	最澄がクスギの生木に十一面観音坐像を刻んで安置したのが始まりとああ伝わる天台宗の古寺。JR甲賀駅から車で10分。
水口城資料館 (水口城跡)	甲賀市 水口町	水口城を復元し、城の模型や水口藩時代の文献を展示した資料館。近江鉄道水口城南駅から徒歩4分。
甲賀市水口 歴史民俗資料館	甲賀市 水口町	水口曳山祭で巡行する人形飾屋台の曳山等を展示した資料館。近江鉄道水口城南駅からすぐ。
大池寺	甲賀市 水口町	小堀遠州が作庭した蓬萊庭園で知られる臨済宗の古刹。 JR貴生川駅から車で10分。
大岡寺	甲賀市 水口町	古城山を背にしてたたずむ天台宗の寺院で芭蕉の詠んだ句碑が立つ。JR貴生川駅から車で5分。
みなくち 子どもの森	甲賀市 水口町	230年前の水口を再現した太古の森等自然が学べる自然公園。 JR貴生川駅から徒歩25分。
土山宿本陣跡	甲賀市 土山町	東海道49番目の宿場町で徳川家光上洛の際宿泊に使用された建物。JR貴生川駅からバスで20分、徒歩5分。
田村神社	甲賀市 土山町	坂上田村麻呂を祀る古社で、県下有数の神社建築として名高い。 JR貴生川駅からバスで30分。
あいの土山	甲賀市 土山町	土山町の特産品が豊富に揃う道の駅。 JR貴生川駅からバスで30分。
東海道伝馬館	甲賀市 土山町	街道文化の情報を紹介。 JR貴生川駅からバスで20分、徒歩3分。
吉御子神社	湖南市 石部	奈良時代後期に創建された古社で、本殿は江戸時代に京都上賀茂神社から移築された。JR石部駅から徒歩10分。
長寿寺	湖南市 東寺	国宝の檜皮葺き寄せ棟造りの本堂がある天台宗の古刹。 JR石部駅から車で8分。
じゅらくの里 土の館・木工の館	湖南市 東寺	陶芸と木工体験のできる施設。 JR石部駅から車で10分。
石部宿場の郷	湖南市 雨山	江戸時代の東海道石部宿を再現した歴史資料館。 JR石部駅から車で8分。
善水寺	湖南市 岩根	国宝の本堂をはじめ貴重な数多くの仏像を所蔵している平安初期に最澄が天台宗に改めた古刹。JR三雲駅からバスで10分。
常楽寺	湖南市 西寺	国宝の本堂、三重塔のある天台宗の寺。 JR石部駅からバスで10分。
湖南市伝統 工芸会館	湖南市 岩根	下田焼や竹皮細工、近江木綿正藍染め等を紹介、絵付け体験もできる。JR三雲駅からバスで5分。

### 東近江エリアの見どころ

見どころ	住所	特長・歴史等
近江八幡 古い町並	近江八幡市 市内一帯	豊臣秀次により開かれた城下町で、堀沿いに八幡商人の豪壮な屋敷が立ち並ぶ町。JR近江八幡駅よりバスで5分。



近江八幡市立資料館	近江八幡市新町	江戸期築の商家を修復して資料館としているもので、郷土資料館、歴史民俗資料館、旧西川家住宅、旧伴家住宅の4館がある。
かわらミュージアム	近江八幡市多賀町	八幡瓦をはじめ国内外の数々の瓦コレクションや資料を展示。瓦粘土を使った作陶体験もできる。
白雲館	近江八幡市為心町元	明治10(1877)年に旧八幡東校として建てられた建築物を利用した観光案内所。和洋折衷様式の建物で、喫茶店も併設している。
あきんどの里	近江八幡市多賀町	江戸時代の町家ふうの7店舗が並ぶ食の広場で、ガラス工房ではサンドブラスト体験教室もできる。
八幡堀	近江八幡市新町	琵琶湖水運の要衝として設けられた全長6kmの堀で、堀沿いには瓦工場の白壁土蔵や旧家が続き人気を集めている。
八幡山(八幡城跡)	近江八幡市宮内町	豊臣秀次が山頂に築いた城跡で、山頂からは近江八幡市街や琵琶湖が一望できる。ふもとから山頂まで八幡山ロープウェイで4分。
日牟禮八幡宮	近江八幡市宮内町	八幡山のふもとに建つ古社で、近江商人の守護神として信仰を集めた神社。
水郷めぐり	近江八幡市北野庄町他	「春色・安土八幡の水郷」と近江八景の一つに数えられる西の湖を中心に網の目のように続く水路を屋形船で楽しめる。
水荃焼陶芸の里	近江八幡市中野庄町	琵琶湖の色をイメージした色合いの水荃焼の作陶体験ができる。近江八幡駅よりバスで20分。
長命寺	近江八幡市長命寺町	湖畔に建つ天台宗の寺院で、西国三十三ヶ所31番札所。国の重要文化財を多数有する。JR近江八幡駅からバスで20分、徒歩15分。
安土町城郭資料館	安土町小中	安土城に関する資料館で、安土城を精巧に再現した20分の1の模型等を展示。JR安土駅すぐ。
文芸の里	安土町桑実寺	スペイン・セビリア万博に出展した安土城天主5,6階部分の原寸大復元模型等を展示した館等がある安土町の文化芸術の発信拠点。
近江風土記の丘	安土町下豊浦	安土城跡に広がる歴史公園。JR安土駅から徒歩25分。
安土城跡	安土町下豊浦	信長が3年の歳月をかけて築城した安土城の城跡で、特別史跡になっている石垣が残る。JR安土駅から登山口まで徒歩25分。
観音正寺	安土町石寺	西国三十三ヶ所第32番札所で、聖徳太子が人魚に哀願されて建立したと伝わる寺。JR安土駅から車で10分、徒歩15分。
百済寺	東近江市百済寺町	聖徳太子の発願によって創建された湖東三山最古の寺。近江鉄道八日市駅から車で15分。
石塔寺	東近江市石塔町	インドアショカ王が仏教の興隆を願って世界にばらまいた仏舎利等の1つとされる重要文化財に指定された石塔が建つ天台宗寺院。
太郎坊宮(阿賀神社)	東近江市小脇町	赤神山の中腹に建つ神社。近江鉄道太郎坊宮駅から徒歩20分。
金堂地区近江商人屋敷	東近江市五個荘	外村宇兵衛邸、外村繁邸、中江準五郎邸など4軒の商人屋敷を公開。
石馬寺	東近江市五個荘	通称「馬の寺」と呼ばれる古刹で、聖徳太子が近江巡行の際、馬が石となり動かなくなったことに由来して建立された。
近江商人博物館	東近江市五個荘	近江商人の歴史を発祥から未来まで年代別に展示した博物館。JR能登川駅から車で15分。
観峰館	東近江市五個荘	中国の建築様式を模した外観で、原田観峰氏の収集した中国書家の作品を展示。近江鉄道五個荘駅から徒歩15分。
世界凧博物館八日市大凧会館	東近江市八日市	大凧を展示する珍しい凧の博物館。近江鉄道八日市駅から徒歩20分。
木地師資料館(木地屋資料館)	東近江市蛭谷町	木地師(木工品の製作をする職人)の木工製品を展示する資料館。近江鉄道八日市駅からバスで80分。

日登美美術館	東近江市 山上町	実業家図師礼三氏が収集したバーナード・リーチの作品を展示する美術館。近江鉄道八日市駅からバスで25分。
西堀榮三郎記念 探検の殿堂	東近江市 横溝町	南極で日本人初の越冬を成功させた西堀榮三郎の記念館。凍えるような南極の極寒を体感できる。近江鉄道八日市駅から車で20分。
近江商人郷土館	東近江市 小田刈町	「丁吟」と呼ばれた近江商人小林吟右衛門邸。 近江鉄道八日市駅から徒歩15分。
永源寺	東近江市 永源寺町	臨済宗永源寺派の総本山。 近江鉄道八日市駅からバスで40分、徒歩10分。
能登川水車と カヌーランド	東近江市 伊庭町	直径13mの巨大水車が回る伊庭内湖畔のレジャーランド。 JR能登川駅から車で7分。
苗村神社	竜王町 綾戸	鏡山の東麓に建つ古社。西本殿は国宝に指定されている。 JR近江八幡駅からバスで25分、徒歩10分。
鏡神社	竜王町 鏡	南北朝時代に創建された古社。 JR近江八幡駅からバスで15分、徒歩5分。
アグリパーク 竜王	竜王町 山之上	ナシやブドウなどを収穫できる体験型の農業公園。 JR近江八幡駅からバスで35分、徒歩10分。
妹背の里	竜王町 川守	200基以上の古墳が発掘された雪野山の麓に広がるレクリエーションゾーン。JR近江八幡駅からバスで25分、徒歩15分。
近江日野商人館	日野町 大窪	日野商人山中兵右衛門の邸宅を資料館として公開。 近江鉄道日野駅からバスで7分、徒歩5分。
馬見岡綿向神社	日野町 村井	日野商人が崇拝した古社で、寄進した石灯籠や石橋が残っている。 近江鉄道日野駅からバスで11分、徒歩5分。
滋賀農業公園 ブルーメの丘	日野町 西大路	中世ドイツの農村をテーマにしたファームパーク。ソーセージ手作り体験や陶芸教室などの体験メニューも用意されている。
グリム冒険の森	日野町 熊野	家族で楽しめるグリム童話の森で、コテージやオートキャンプ場を備えている。近江鉄道日野駅から車で20分。

## 湖東エリアの見どころ

見どころ	住所	特長・歴史等
夢京橋 (キャッスルロード)	彦根市 本町	彦根城の外濠にかかる京橋を起点に南北に350mほど続く小江戸情緒と大正ロマン漂う町並。JR彦根駅より徒歩20分。
四番町スクエア	彦根市 本町	本町1丁目と中央町にまたがり、大正11(1922)年に開設し賑わっていた本町市場商店街を再現、大正ロマンの雰囲気が漂う町並。
宗安寺	彦根市 本町	赤門が独特の町並みに映える。 境内のボタン園が有名で5月中旬が見ごろ。
俳遊館	彦根市 本町	彦根の歴史や民話、方言などを紹介している俳句の資料館。大正13(1924)年にして銀行して建てられたレトロな雰囲気の建物。
彦根城	彦根市 金亀町	井伊家の居城で国宝の天守の他重要文化財に指定されている建物が数多く残る。城内に埋木舎、玄宮園、彦根城博物館等がある。
長寿院 (大洞弁財天)	彦根市 古沢町	欄間に施された精巧な猫や像の彫刻から彦根日光と呼ばれる。 JR彦根駅から徒歩25分。
龍潭寺	彦根市 古沢町	井伊家発祥の地遠州井伊谷から移された井伊家の菩提寺。 JR彦根駅から徒歩15分。
五百羅漢 天寧寺	彦根市 里根町	京都の名工駒井朝運が刻んだ五百羅漢を祀った別名「菘の寺」で知られる寺。JR彦根駅よりバスで5分。
荒神山	彦根市 清崎町	湖岸に近い平野にそびえる山で、山頂からは彦根市街や琵琶湖が見渡せる。JR河瀬駅から車で10分。

多賀大社	多賀町 多賀	延命長寿、縁結びの神様として古くから信仰を集める「お多賀さん」の名で親しまれる大社。近江鉄道多賀大社前駅から徒歩 10 分。
滋賀県立 野鳥の森	多賀町一円	芹川ダム周辺に広がる水と緑のエリアで、ダム周辺に設けられた周遊路で野鳥観察ができる。JR彦根駅からバスで 20 分、徒歩 15 分。
ダニツカストロ パーク天究館	多賀町 多賀	県下最大の口径 60cm の反射望遠鏡や各種天体望遠鏡を備えた本格的な天文館。近江鉄道多賀大社前駅から徒歩 30 分。
大滝神社	多賀町 富之尾	通称「滝の宮」とも呼ばれ、水の神を祀る神社。近江鉄道多賀大社前駅から車で 10 分。
多賀町立博物館 自然と文化の館	多賀町 四手	古代ゾウなど古代の動植物や多賀町の自然に関する資料を展示した博物館。近江鉄道多賀大社前駅から徒歩 20 分。
河内の風穴	多賀町 河内宮前	約 55 万年前にできたと言われる総延長 3320m の鍾乳洞で神秘的な空間が広がる。近江鉄道多賀大社前駅から車で 15 分。
金剛輪寺 (松尾寺)	愛荘町 松尾寺	約 1200 年前に聖武天皇の命で行基が建立した湖東三山の中心に位置する寺。境内に明寿院、常照庵、愛荘町立歴史文化博物館がある。
近江上布 伝統産業会館	愛荘町 愛知川	700 年の歴史を持つ麻織物「近江上布」を展示紹介する資料館。近江鉄道愛知川駅から徒歩 5 分。
西明寺 (池寺)	甲良町 池寺	国宝の本堂と三重塔を持つ天台宗の古刹。JR河瀬駅から車で 15 分。
甲良豊後守 宗廣記念館	甲良町 法養寺	江戸幕府の作事方大棟梁として活躍した甲良豊後守宗廣の功績を称える記念館。JR河瀬駅からバスで 15 分、徒歩 10 分。
勝楽寺	甲良町 正楽寺	室町幕府創建に携わった佐々木高氏（京極導誉）が建立した寺。JR河瀬駅からバスで 20 分、徒歩 10 分。
伊藤忠兵衛 記念館	豊郷町 八目	総合商社「伊藤忠」や「丸紅」の創業者の生家を公開。近江鉄道豊郷駅から徒歩 5 分。
豊会館	豊郷町 下枝	「あけぼの印の缶詰」の基礎を築いた近江商人藤野喜兵衛の屋敷を公開。近江鉄道豊郷駅から徒歩 10 分。

## 湖北エリアの見どころ

見どころ	住所	特長・歴史等
黒壁スクエア	長浜市 元浜町	町家生かしたガラス製品のショップやみやげ物店等が立ち並ぶスポット。ガラス工房等 1 号館から 28 号館までに分かれている。
海洋堂 フィギュアミュージアム	長浜市 元浜町	恐竜やヒーロー、シネマ、ガールズなど精巧で表情豊かなフィギュアを鑑賞できる。
曳山博物館	長浜市 元浜町	長浜八幡宮の例祭で、日本三大山車祭りの一つに数えられる長浜曳山まつりを紹介する博物館で、展示室には曳山が展示されている。
郷土資料館	長浜市 元浜町	湖上交通や北国街道で栄えた長浜の歴史と文化が学べる資料館。JR長浜駅から徒歩 3 分。
北国街道 安藤家	長浜市 元浜町	長浜の自治を任されていた「十人衆」の一軒だった安藤家の屋敷を公開、北大路魯山人の天井絵や襖絵が残る小蘭亭は年 4 回公開。
開知学校	長浜市 元浜町	明治 4 (1871) 年に誕生した滋賀第一小学校の学舎を生かした施設で、4 階に復元された太鼓櫓からは市街地が一望できる。
大通寺	長浜市 元浜町	「御坊さん」の名で親しまれる真宗大谷派本願寺の別院。JR長浜駅から徒歩 15 分。
豊国神社	長浜市 南呉服町	長浜の町衆が秀吉をしのんで建てた社。商売の神である恵比寿神が祀られ、十日戎で賑わう。
長浜八幡宮	長浜市 宮前町	南北朝時代に京都石清水八幡宮から勧請したことが起源の社で、4 月中旬の「長浜曳山祭」が有名。

豊公園 長浜城	長浜市 公園町	豊臣秀吉の居城だった長浜城跡に整備された公園。園内には、天守閣を模した長浜城歴史博物館や太閤井戸などの遺構が残る。
慶雲館	長浜市 港町	明治天皇の休憩所として長浜の豪商が建てた屋敷で、「長浜盆梅展」の会場として使われている。JR長浜駅から徒歩3分。
長浜鉄道 スクエア	長浜市 北船町	明治15(1882)年に建造された現存する最古の駅舎。「長浜鉄道文化館」、「北陸線電化記念館」、D51蒸気機関車等が展示されている。
成田美術館	長浜市 朝日町	アール・デコの巨匠、ルネ・ラリックのガラスアートを展示。JR長浜駅から徒歩10分。
総持寺	長浜市 宮司町	大輪のボタンが咲くことで有名な寺。JR長浜駅からバスで12分。
浅井歴史 民俗資料館	長浜市 大依町	お市の方をシンボルとする民俗資料館。長浜駅から車で20分。
国友鉄砲の郷 資料館	長浜市 国友町	鉄砲に関する資料や実物の火縄銃等を展示、鉄砲鍛冶の現場を再現。JR長浜駅から車で10分。
近江孤蓬庵	長浜市 上野町	小堀遠州の菩提を弔うため建てられた寺で、近江八景の縮図といわれる池泉回遊式庭園と枯山水庭園の美しさは有名。
浅井能楽資料館	長浜市 力丸町	能面、能楽束の研究、展示を行う資料館。JR長浜駅から車で15分。
竹生島・宝蔵寺	長浜市 早崎町	長浜市の沖合いに浮かぶ周囲2kmの島。琵琶湖八景「新緑・竹生島の沈影」で知られ、長浜港や今津港から高速船が出ている。
虎姫時遊館	虎姫町 三川	信長が浅井・朝倉攻めの際本陣とした虎御前山のふもとに建ち、郷土の歴史や文化を紹介している。JR虎姫駅から徒歩10分。
湖北 野鳥センター	湖北町 今西	湖北町水鳥公園内にあり、備付けのフィールドスコープや双眼鏡でバードウォッチングが楽しめる。JR河毛駅からバスで20分。
渡岸寺観音堂 (向源寺)	高月町 渡岸寺	飛鳥時代に恵隠により創建された名刹で、観音の里を代表する美しい国宝十一面観音立像がある。JR高月駅から徒歩10分。
観音の里 歴史民俗資料館	高月町 渡岸寺	渡岸寺観音堂に隣接する資料館で、湖北の観音信仰や歴史を学べる施設。JR高月駅から徒歩5分。
出合いの森 井上靖記念館	高月町 渡岸寺	作家井上靖氏の作品資料や直筆原稿、写真などが展示されている記念館。JR高月駅から徒歩15分。
西野薬師観音堂 (充滿寺)	高月町 西野	十一面観音と薬師如来像の2体が安置されている観音堂。JR高月駅から車で5分。
雨森芳洲庵	高月町 雨森	江戸中期に日韓交流に尽くした儒学者雨森芳洲の生家跡に設けられた記念館。JR高月駅から車で5分。
木の本地蔵院	木之本町 木之本	延命息災、眼病の仏として信仰され、本尊の地藏菩薩立像は秘仏で国の重要文化財に指定されている。JR木ノ本駅から徒歩3分。
賤ヶ岳	木之本町 大音	琵琶湖八景の一つ「新雪・賤ヶ岳の大観」で知られる景勝地。戦国時代に賤ヶ岳合戦の舞台となった歴史を持つ。
黒田観音寺	木之本町 黒田	平安期、最澄の作と言われる千手観音像は国の重要文化財に指定。JR木ノ本駅から車で5分。
石道寺	木之本町 石道	国の重要文化財である十一面観音等を安置する寺。JR木ノ本駅からバスで15分、徒歩15分。
己高閣・世代閣	木之本町 古橋	己高山鶏足寺を中心とした山岳仏教文化の文化財を収蔵。JR木ノ本駅からバスで15分、徒歩5分。
医王寺	木之本町 大見	国の重要文化財に指定されている十一面観音立像は10～11世紀初頭の作と言われている。井上靖の「星と祭」にも登場する。
余呉湖	余呉町 川並	周囲約7kmの小さな湖で、湖畔には天女の羽衣伝説が残る衣掛柳が立つ。JR余呉駅から徒歩10分。

ウッドイパル 余呉	余呉町 中之郷	キャンプ場を拠点にパターゴルフ、テニスコート、アスレチック等がある。冬期には隣の赤子山スキー場がオープン。
菅山寺	余呉町 坂口	菅原道真が子供の頃学んだと伝わる大箕山の山中にある無住寺。鎌倉中期に作られた銅鐘は国の重要文化財に指定されている。
北淡海 丸子船の館	西浅井町 大浦	湖上の輸送船として活躍した丸子船の歴史とその功績を学ぶ資料館。JR永原駅から徒歩15分。
奥びわこ パークウェイ	西浅井町 菅浦	全長18.8kmのドライブウェイでつづら尾展望台からは琵琶湖を一望できる。JR永原駅から車で20分。
ランタの館	西浅井町 菅浦	シーカヤックや魚釣り、みかん狩り等20種類のコースがある体験施設。JR永原駅からバスで15分。
近江母の郷	米原市 宇賀野	山内一豊の妻千代の出生地として資料を展示した道の駅。近くには母法秀院の墓もある。JR坂田駅から徒歩15分。
福田寺	米原市 長沢	国名勝の枯山水の庭園が残る浄土真宗本願寺派の寺院。JR田村駅から徒歩15分。
青岸寺	米原市 米原	南北朝時代に近江守護佐々木導誉によって創建された曹洞宗の禅寺。JR米原駅から徒歩7分。
居醒の清水	米原市 醒井	中仙道醒井宿の地蔵川、加茂神社境内脇の石垣から湧き出る霊水。醒ヶ井駅から徒歩10分。
醒井宿資料館	米原市 醒井	江戸時代に問屋場を営んでいた川口家住宅のほか、大正時代建築の旧醒井郵便局跡を資料館として公開、宿場町の歴史資料を展示。
醒井養鱒場	米原市 上丹生	明治11(1878)年に造られた東洋一の養鱒場。JR醒ヶ井駅からバスで13分。
醒井峡谷	米原市 上丹生	宗谷川上流にある渓谷で、霊仙山に至るハイキングコースが整備されている。JR醒ヶ井駅からバス15分。
三島池	米原市 池下	10月下旬にマガモやオシドリが飛来することで知られ、隣接する三島池ビジターセンターには望遠鏡があり、水鳥の観察ができる。
グリーンパーク 山東	米原市 池下	三島池に隣接するキャンプ場やゴルフガーデン、インドア施設を備えた総合公園。JR近江長岡駅からバスで6分。
柏原宿歴史館	米原市 柏原	旧中仙道の宿場町柏原宿の模型や印籠などの旅の小道具を展示。JR柏原駅から徒歩8分。
伊吹山	米原市 上野	滋賀県下最高峰の山で、山頂へはドライブウェイと登山道が通じている。名神高速道路関が原ICから車で10分。
伊吹の里 旬彩の森	米原市 伊吹	体験工房、野菜直売所、薬草足湯等のある施設。JR長岡駅から車で13分。

## 湖西エリアの見どころ

見どころ	住所	特長・歴史等
白髭神社	高島市 鵜川	垂仁天皇の御代に創建されたと伝えられ、湖中に朱塗りの大鳥居が建つ。本殿は豊臣秀頼と淀君が寄進したもので重要文化財に指定。
鵜川四十八体 石仏群	高島市 鵜川	室町時代に観音寺城主佐々木六角義賢が造らせた阿弥陀如来坐像の石仏群。JR近江高島駅から徒歩20分。
ハツ淵の滝	高島市 鹿ヶ瀬	落差30mの「屏風が淵」を主瀑に連なる8つの滝の総称。JR近江高島駅からバスで20分、徒歩50分。
比良美術館	高島市 鹿ヶ瀬	現代作家作品を中心に展示。JR近江高島駅からバスで17分。
たかしま アイルランド交流館	高島市 勝野	商いの町高島と友好国アイルランドの交流をテーマにした施設。JR近江高島駅から徒歩5分。

ガリバー 青少年旅行村	高島市 鹿ヶ瀬	ガリバーのおとぎの国をイメージし、コテージやアスレチック遊具、天文台等上尾を備えた野外活動施設。
陽明園	高島市 安曇川町	中江藤樹ゆかりの中国風庭園。 J R安曇川駅から徒歩15分。
近江聖人 中江藤樹記念館	高島市 安曇川町	中江藤樹の遺品や資料を紹介。 J R安曇川駅から徒歩15分。
藤樹書院跡	高島市 安曇川町	陽明学者中江藤樹が門弟や村人を集めて講義した私塾の跡。 入母屋の書院では自筆の著書や遺品などを多数展示。
滋賀県立びわ湖 こどもの国	高島市 安曇川町	キャンプ場や芝生公園、アスレチック遊具や冒険水路等を備えた野外活動施設。J R安曇川駅からバスで20分。
しんあさひ 風車村	高島市 新旭町	三つの風車がシンボルの道の駅。新旭花ショウブ園が隣接。 J R新旭駅からバスで10分。
大荒比古神社	高島市 新旭町	10世紀前半の撰集「延喜神名帳」にも載っている式内社。五月に行われる「七川祭」が有名。J R新旭駅からバスで6分。
新旭水鳥観察セ ンター	高島市 新旭町	琵琶湖に飛来する水鳥を双眼鏡や望遠鏡で観察できる。 J R新旭駅からバスで15分。
琵琶湖就航の歌 資料館	高島市 今津町	旧制三高ボート部寮歌として伝わった「琵琶湖就航の歌」の資料を展示。J R近江今津駅から徒歩3分。
極楽寺庭園	高島市 今津町	自然の借景を利用した枯山水庭園。 J R今津駅から車で8分。
今津ヴォーリス 資料館	高島市 今津町	建築家ウィリアム、ヴォーリスが建てた建築物で、経歴や資料を展示。J R近江今津駅から徒歩10分。
箱館山	高島市 今津町	標高547mの山で、ハイキング、キャンプが楽しめ、冬にはスキー場で賑わう。J R近江今津駅からバスで15分。
家族旅行村 ピラデスト今津	高島市 今津町	標高500mにあるテニスコートやパターゴルフ場等を備えたアウトドア施設。J R近江今津駅からバスで30分。
体験交流 センターゆめの	高島市 今津町	加工実習館では地元産のそば粉を使ったそば打ち体験ができる。 J R近江今津駅からバスで15分。
海津大崎	高島市 マキノ町	琵琶湖八景「暁霧・海津大崎の岩礁」として名高い景勝地。天狗岩など奇岩怪石が点在する。日本の桜百選にも選ばれた。
大崎寺	高島市 マキノ町	海津大崎に立つ古刹で、大崎観音の名で親しまれている。 J Rマキノ駅から車で20分。
マキノ ピクランド	高島市 マキノ町	さくらんぼ、ブドウ、リンゴ等の果実狩りの楽しめる農業公園。 J Rマキノ駅からバスで7分。
旧秀隣寺庭園 (興聖寺)	高島市 朽木岩瀬	国の名勝に指定された足利将軍ゆかりの池泉回遊式庭園。 J R安曇川駅からバスで35分。
くつき新本陣	高島市 朽木市場	朽木氏の城館・朽木本陣を復活させた道の駅。 J R安曇川駅からバスで30分。
朽木資料館	高島市 朽木野尻	朽木の陣屋跡に立つ茅葺きの歴史資料館。 J R安曇川駅から車で30分。
グリーンパーク 想いでの森	高島市 朽木柏	宿泊施設やアスレチック施設、温泉等を備えた野外活動施設。